

特集:

SPORTS×ICU

スポーツとICU

2013年4月、ICUのグラウンドが鮮やかな緑で覆われた。

出来上がったばかりの人工芝のグラウンドからは、スポーツを楽しむ学生の声が聞こえてくる。

運動するには絶好の環境に恵まれながらも、ICUが大学スポーツ界で注目されることはほとんどない。

とはいえ、いまも学生は4単位の保健体育科目を必修とし、卒業生にはスポーツに関わる分野で活躍する人も少なくない。

しかも、現役生の中に、あるスポーツの日本代表選手がいるとか!? スポーツとICUのつながり――それは"意外"? それとも"必然"? 今回は、スポーツという切り口からICUの姿を見てみよう。



A_Interview

史上初の大学ラグビー4連覇を果たした帝京大学ラグビー部。 最強のチームを支える一人がフィジカルコーチを務める加藤慶さん。 日本一に至るまでの道のりを聞きに、春の光が注ぐ練習場を訪ねた。

加藤慶(45 1001) 帝京大学ラグビー部フィジカルコーチ/ノジマ相模原ライズディフェンスコーディネーター

取材・文 森川幹人、赤松弥生(本誌) 写真 青地あい(本誌)



丘の上にあるグランドは午後の陽光に照らされて輝いていた。前日は関東大学春季大会が行われ、帝京大学ラグビー部の選手たちは声を掛け、体をぶつけ合って躍動していたが、今は静まり返っている。誰もいないフィールドを見ていると、選手たちが走って描いた無数のラインが目に浮かぶ。そこでは言葉にできない達成の思いと後悔の念が生まれては消え、芝生には数えきれない者たちの涙と汗が染み込んでいる。

今年の正月、帝京大学はラグビー全国大学選手権で史上初の4連覇を達成。フィジカルコーチとして100人を超える選手たちのトレーニングを担当して6年が経つ。体の強さを売りにしているチームは、練習の半分をラグビーに、残りの半分を体作りに当てる。学生たちは全体練習以外にも自主的にトレーニングを行っており、一年中はぼ毎日のように付き添う。彼らの体を徹底的に追い込むのが役割だと説明したあと、「精神的にもね」と言葉を足した。

コーチと選手のあいだ

チームはフィジカルの強さで注目を浴びるが、一番大切にしているのは規律だ。「ここでさぼらなければ自分の成長につながる」と選手自身に感じてもらうことをトレーニングでいつも考えている。一人ひとりに向き合えればベストだが、人数が多いので現実には難しい。「技量はすごくあるけどルーズなやつなど、影響力がある選手を変えられると、周りの選手にも波及してチームに広がっていく」と、指導のベースには冷静な観察と計算がある。

原点はICUで始めたアメリカンフットボール。高校までやっていたラグビーは攻守の切り替えがなく、ずっと走りつづける競技だが、アメフトでは攻撃と守備のどちらかをやればいいはずだった。「でもICUは選手が少なく、攻撃も守備もやるはめになって予想以上に大変だった」と笑う。トレーニングや練習のメニューを部員たちでつくり、戦術も年齢の近いOBと一緒になって考えた日々を通じて学んだことは数えきれない。「しんどいときこそ笑顔で楽しそうにやる」という哲学は、現在も指導の根っこにある。

今、35歳。「選手にとっては、いいおじさんでもあるし、ぎりぎり年取った先輩でもある」という年齢をうまく利用して学生に接する。「近づかないとコミュニケーションが取れない。かといって近すぎると緊張感がなくなる」。全体練習では怖いコー

チに徹し、少人数の個人練習では先輩として一緒にトレーニングする。その体が鍛え上げられていることは、ルーズフィットのシャツを着ていても容易に想像がついた。筋トレでも選手たちよりも重いウエイトを気合いで持ち上げる。「根性で挙げることもあります。すると負けない気持ちの大切さが学生に伝わる」。絶妙な距離感を測り、共に体を動かすなかで培った絆と、「選手がいつ変わるかは我慢して待つしかない」と語る教育者としての愛情が、彼らの心をがっちりと掴む。

帝京の強さに一つに、早稲田、明治、慶応などの花形大学には絶対に負けないというプライドがある。4連覇したことで最近は高校時代のエリート選手が入ってくるようになったが、「名前の知られていない高校出身の選手が化けるのが面白いし、指導者としてのやりがいもある」。マイノリティの誇りは、ICU生の気質にもつながるところ。

ディフェンスコーディネーターを務める ノジマ相模原ライズもプライドが支えてい るチームだ。現在、アメリカンフットボー ルXリーグ1部で活躍し、毎年ベスト4に残 る強豪だ。前身のオンワードスカイラーク ス時代、日本一に輝いたのは2006年。そ の2年後、オーナー企業の意向によってチ ームは解散したが、アメフトをつづけたい 選手たちが集まり、市民チームとして活動 を再開する。3部リーグからスタートし、 3年かけてトップリーグへ返り咲いた。「試 合途中で息切れしても、最後にチームとし て力を振り絞れる強さがある」のは、いろ いろな犠牲を払いながらも、アメフトが好 きだからやっている純粋な気持ちが共有さ れているからこそ。

グラウンドに懸ける夢

「目に見えない気持ちは人間のパフォーマンスにものすごく作用するから、トレーニングでもみんなの心をいい方向にもっていくことを一番に考え」、練習でも「スイッチを入れろ」と檄を飛ばす。例えば、100m走るとき。この1本で何かが決まる気持ちで全エネルギーを注げるか。10回走るなら、10回スイッチを入れられるか。「このワンプレイというときに全員のスイッチが自然に入るようになれば、接戦を制することができる」。普段の生活で規律をもち、練習で人が見ていなくても力を抜かず誠実にやることが、ぎりぎりの状況に追い込まれたとき力を発揮することにつながると



をもって体験してきた。だからこそ、「チームが優勝したこと自体より、優勝したことで誠実に努力してきたチームの姿勢が評価されることがうれしい」と、人間の成長に携われることを心から喜ぶ。

選手たちに厳しいことを言う立場にあるがゆえ、自分に課したルールは絶対に守る。その決意はICUを卒業後、システムエンジニアとして働いていたときからつづく。「机に座ってそれなりに仕事してお金が振り込まれると、そのうち頑張らなくなると思った」あとは、迷うことなく行き先の見えないスポーツ指導の世界に身を投じた。自分の弱さと真摯に向き合い、己を鼓舞する姿勢は、会社員時代も、指導者として働きつづける今も変わらない。

今年の春、かつて青春を過ごしたグランドには、大学とOBの後押しを受けて青々とした芝生が敷かれた。同じキャンパスで過ごし、今はロンドンでデザイナーとして活躍する先輩に、「日本一になったんだから、今度は世界一になれ」と激励を受けた。「ICUのアメフト部に強くなってもらいたい」思いから始まった道行きの先に何があるかはまだ見えていないが、「世界一」という言葉はずしりと胸に響いている。

KATO, Kei

加藤慶かとうけい

1977年生まれ。埼玉県立春日部高等学校ではラグビー、大学ではアメリカンフットボール部に所属。2001年、教育学科を卒業したのち、株式会社NTTデータでシステムエンジニアとして働く。その後、筑波大学大学院修士課程体育研究科にてコーチ学を専攻し、2007年より帝京大学ラグビー部でフィジカルコーチを務める。現在はほかに、同校で医科学センター助教、チアリーディング部フィジカルコーチ、また、社会人アメリカンフットボール1部、ノジマ相模原ライズでディフェンスコーディネーターも務めている。

"身体を通じて多様性を経験する"

~リベラルアーツとPEの関係~

取材・文 日下部洋売 構成 栗山のぞみ(ともに本誌)

三橋良子先生 保健体育科上級准教授 「学生に何かあったとき、体育科の教員 の誰かは必ずその学生の授業を受け持っ でいて面識があります。ですから体育科 でいてすぐにその学生を認識し、チーム として彼、彼女の心身を支える体制をと るようになっています」



「大学の体育でアーチェリーや和太鼓を選択した」などと言って、他大学の出身者に怪訝な顔をされた経験は誰にもあるだろう。 ICUが普通の大学でないことは百も承知だが、その体育教育もかなりユニーク。本誌学生記者の日下部洋亮が保健体育科上級准教授の三橋良子先生にお話をうかがった。

大学の保健体育科目は、1956年に制定された大学設置基準では、実技2単位、講義2単位の合計4単位が必修だったが、1991年同基準の大綱化を受け、保健体育という科目区分は廃止された。そのため、現在は必修としての保健体育が1単位もない大学もあるという。こうした流れの中で、ICUはいまだに保健体育科目は4単位が必修だ。しかも、実技には珍しい種目も多い。ICUでは保健体育はPhysical Education、学生をはじめ職員からも"PE(ピーイー)"と呼ばれる。いわゆる日本の学校教育の中に位置する"体育"の対訳ではない。ではPEとはいったい何だろう?

「これがスポーツ?」と思う 種目がなぜPEにあるのか

一PEの特徴というと、やはり変わった種目があることです (右下図参照)。中にはスポーツと言えるのかどうかわからない和太鼓などもあります。このような多様な種目が揃うようになったのは、いつからでしょうか。また、どんな背景があるのですか。

三橋: 私が赴任したのは1986年ですが、それ以前からアーチェリー、剣道、民族舞踊やトランポリン(現在は廃止)など多様な種目がありました。また、太極拳や和太鼓を大学の体育の正規授業として取り入れたのはおそらくICUが最初だと思います。こうした種目の多様性は、「リベラルアーツ教育の一環としてPEを位置づける」というICUの理念の現れであると言えます。単に"身体を鍛える"とか"ルールを覚えて身体を動かす"といったことに留まらず、"身体を通じて多様性を実感する"ことにPEの意義があります。

一それは具体的にはどういうことでしょうか。 三橋:たとえば、ティームスポーツのバスケットボールやバレーボールならパスを受ける味方の身長に合わせて、サッカーならパスの受け手の足の速さやポジショニングを考えてパスを送るでしょう? 背が高いか低いか、足が早いか遅いか、相手を考えて合わせる……それは人の多様性を踏まえた上でのノンバーバル・コミュニケーションです。PEでは、身体性を持った

個人として他者と関わる経験を積み重ねること を重要視しています。

和太鼓も身体を使ったノンバーバル・コミュ ニケーションです。和太鼓には楽譜がありませ ん。創作した曲を伝えるためには、実際に打っ て見せたり、「トントコ、カッカッ」といった 擬音語を使ったり、「右はこうで、左はこう」 と言ったりして、体を使いながら少しずつ相手 に伝えていきます。もちろん、リズムを共有す ることで得られる一体感もノンバーバル・コミ ュニケーションと言えるでしょう。また、社交 ダンスでは、決められたステップはありますが、 踊りながらどこでターンするかなどは男性が瞬 時に判断して体重移動や女性の腰に添えた手の ひらで伝えていく。こうしたコミュニケーショ ンがヨーロッパの歴史・文化の中で培われたと いう背景も含めて、身体性を持って経験します。 民族舞踊も、ぬかるんだ田んぼでの踊りか、固 い地面を想定した踊りなのかによって、動きは まったく変わってきます。動きの違いから文化 の違いに気づきます。

身体の動きが異なれば心の在り様も異なります。太極拳やヨガは動きによって内観することを目的にしています。この種目でコミュニケーションする相手は、内なる自己。身体を通して自身と静かに向き合い、自分の中へと入ってゆく。ティームスポーツとはもちろん、和太鼓や舞踏とも全く違う心の動きがあります。このように、学生さんには様々な種目を経験することで、その都度新しい身体の動かし方や心の在り方に気づいてもらいたいと考えています。身体を使って、じかに人や文化の多様性を感じる。これがリベラルアーツにおけるPEの姿です。

誰もが自分の体に合わせて PEを楽しむ

一新しい種目を導入する際は、リベラルアーツ教育の理念に沿っているかがポイントですか。 三橋:もちろんです。たとえば、アクアスポーツではスキューバダイビングの器材を使ってプールの深いところに潜ります。クロールなど水面の泳ぎとは異なる水中での身体の動かし方を経験できるスポーツとして、10年ほど前に導 入しました。また、学生の多様なニーズに応えることも大切にしています。最近は、精神的ストレスを抱えている学生や、他人とコミュニケーションするのが苦手な学生が多くなったように見受けられます。こうした時代の要請からも、ヨガを導入したのは大きな意義があったと思います。「若いのだから、とにかく元気に身体を動かそう」ではなく、そうできない学生も、PEを通して自分の身体と心に向き合う機会を持てれば……と考えています。

一 "学生の多様性"で言えば、ICUには障がいのある学生も在籍しています。他の学生と一緒に運動するのが難しい学生は、どのような形でPEを履修するのですか。

三橋:履修を免除したり、見学で実技の単位を与えることはありません。PEが必修なのは、「全員やらなければいけない」のではなくて、「みんなが楽しんでいいんだよ」という意味だと、知って頂きたいですね。障がいや病気のために運動することが難しい学生は、高校までの学校生活では体育の授業を楽しめないことも多かったことでしょう。ICUのPEでは、皆と同じである必要はなく、自分自身の身体能力の中で楽しんでほしいと、まず、考えます。

以前、視覚障害の学生がアーチェリーの授業を選択したことがありました。そのとき高橋伸先生がお手製の型枠のようなものをつくり、的を目視で確認できなくても、「枠のここに手を置いて、弦を引いて手を離せば的に向かって矢が飛ぶから、やってごらん」などと工夫していました。また、筋ジストロフィーの学生には、その学生が使える筋肉を考えて、吹き矢のゲームを作ったりしていました。このように学生の身体の多様性に合わせて支援しながら、全ての学生がPEを受けられるようにしています。

ヘルスリテラシーを高める 講義科目

一講義科目では、スポサイ(Sports Science)と呼ばれる体育理論とヘルエド(Health Education)と呼ばれる保健理論とを1年次に受講することになっています。講義科目の目的や音差について教えて下さい。

三橋:スポサイの目的は、運動やトーレーニングの効果、身体の仕組みなどについて科学的に知ることです。スポサイを受講する時期には、並行して実技のBasic 1でランニングをします。実技の授業では、実際に走った後息が上がっている状態で脈拍を測ったりします。講義では、そのデータを元に走ることで消費されるカロリーを計算したり、なぜ疲労を感じるのか等の理論的な裏付けとしての知識を得ます。運動によって生じる身体の変化を実技で実感しつつ、講義では変化についての知識を得る。その上で、自分にとって"より良い動き"とは何かをそれぞれ考えてほしいと思っています。

─**─ヘルエドとは何ですか**。

三橋:ヘルエドでは、身体の仕組みについて 学ぶと同時に、拒食症、薬物依存、うつなど の健康に関する問題について正しい知識を持 つことが目的です。健康に関する情報が過剰 とも言える現代、自分の健康は自分で考えな ければいけません。医者に頼るばかりではなく、 正しい知識を身につけ、主体的に判断できるよ うになることはとても大切です。

一 「ヘルスリテラシーを高める」ということですね。

三橋:そうです。たとえば、家族や親しい人がうつになったらどのように接したらいいのか。病気と正しく向き合うには、病気に関する正しい知識を持つことが大前提ですよね。また最近では、性の多様性についての知識を深めてもらおうと、ジェンダー研究者の方に講演をしていただく機会を設けるようにしました。

——PEは、日本語の"体育"とは違うということがわかってきました。

三橋:そうですか!もうひとつICUのPEには大きな特徴があります。それは、キャンパスに身体運動ができる場所がたくさんあることです。これは東京にある大学では珍しいこと。屋内外の体育施設は、部活動や授業で使われてないかぎり、キャンパスのメンバーなら誰でも使うことができます。日常生活のなかで身体を動かすことで、色々な気づきがあるはずです。「学内で身体を動かせる」という恵まれた環境をもっと利用してほしいですね

現在開講されているPEの実技科目

Basic 1

通常1年次の春学期に履修。

内容は、ストレッチング等の体操、Jogging、水泳等が中心。心拍数 120/min 程度の運動を 20 分くらいは継続できることを目安とする。水泳の苦手な学生は泳ぎの練習をするが、泳げる人なら 400 ~ 500m 位は泳ぎ続けることになる。

Basic 2

通常1年次の秋学期に履修。

スポーツ種目は担当者によって異なるが、ティームスポーツを中心に行う。身体的な活動を通したコミュニケーションをテーマとする。

Basic 1, Basic 2履修後、 以下の種目から4種目履修する

◎ティームスポーツ

フライングディスク、ソフトボール、フットサル、サッカー、バレーボール、バスケットボール、

- - - - - - - · 対人スポーツ

テニス、卓球、バトミントン

○個人スポーツ

ゴルフ、アーチェリー、スイミング、アクアスポーツ

◎個人試技活動

ヨガ、ウェイトトレーニング、フィジカルコンディショ ニング、ムーブメントアウェアネス、フィットネス

-----○枚闘垬

剣道、剣道形、太極拳、合気道

日本民俗舞踊、社交ダンス、リズム&ダンス、 創作和太鼓

◎ゲームとクラフト

ゲームとクラフト、キャンプとクラフト



フィールドの人工芝化、ついに実現!

はじめて評議員会でこの話がでてから10年、実際に動き始めてから2年半 同窓生が積極的にかかわったのも画期的です 多くの人の思いから、今、キャンパスに新しい輝きが加わりました

> 中内俊一郎(フィールド人工芝化推進協議会会長、16期、ラグビー部OB) 八代尚宏(同副会長、12期サッカー部OB)、吉田浩(同副会長、24期アメフトOB)



オープニング・イベントの最後に行われた人文字の撮影

ICUフィールド人工芝化推進協議会を代 表し、人工芝競技場完成にあたり、同窓生 の皆様にご報告と感謝を申し上げます。オ ープニングは4月13日、快晴の空の下、多 数のOB、OGのご出席を賜り、現役学生 の運営で、チアの応援を受けながら、ラグ ビー、サッカー、アメフトのミニゲームを 行い、完成を祝いました。

2010年暮れ、鈴木典比古学長(当時) に協議会の要望書を提出し、体育施設も「世 界基準に」とお願いして、この活動は始ま りました。協議会はスポーツ関係クラブの 学生とそのOB、OGで構成されています。 現役学生には募金を求めないかわりに、全 在校生の半数を超える1299名から人工芝 化賛同署名を集めてもらいました。OB、 OGは募金活動に携り、この2年半で、目 標額4千万円にあと135万円程まで集めま

募金は協議会の全クラブの幅広いサポー トを頂き、特にラグビー、サッカー、アメ フトの3クラブで8割を超すご協力を頂き ました。その他、同窓会および一般同窓生、 フィールド以外のクラブOB(テニス、剣道、 山岳、グリー)や寮生OB、教職員、ICU 教会員、在校生保護者の皆様からもご支援 を頂きました。また米国はじめ世界各地の 同窓生からもご寄付頂き、ニューヨークの

JICUF(日本国際基督教大学財団)にもサ ポートを頂きました。

2010年の秋から、すでに人工芝フィー ルドを持つ大学や企業へ、学生を連れ、実 際の見学を行い、製品の情報、施工の方法、 メーカーの情報、助言などを頂きました。 とりわけ、日体大や成蹊大からは、何度も 有益で詳細な助言を頂くことが出来て幸い でした。2012年秋には大学が人工芝検討 委員会(委員長 村上透副学長=当時)を 設置し、製品、施工業者を選定し、競技の ライン計画などを決め、暮れには着工が決 定、2013年1月から施工開始し、4月上旬 に竣工しました。

One for All, All for One

人工芝は大塚ターフテックの65mmロン グパイルという製品を選び、慶応ラグビー 場の施工実績のある、フリーダ(株)が施 工しました。環境に配慮した下地のBSS 舗装に大きな特徴があり、また5競技の複 雑なライン、ゴールポストなども丁寧に作 ってくれました。付帯設備としてグランド にAEDも設置し、安全性への配慮もして あります。

ラグビーには「One for All, All for One」という言葉がありますが、協議会ク ラブはもとより大学、学生、同窓会、同窓 生、教職員、在校生保護者、ICU教会員の 方々がひとつにまとまることにより、完成 できたのだと感謝致します。ICUの誇るリ ベラルアーツ教育には知育と共に体育も同 じように重要だと言われています。こうし て完成した人工芝フィールドを、学生たち が体育の授業やクラブ活動に大いに活用し て、心身を鍛え、社会に出てから活躍する 礎としてくれることを願っています。

(注)

- 1. 見学した大学等: 成蹊大学、日本体育大学、拓殖大学、 帝京大学、アメリカンスクール・イン・ジャパン、慶応義塾
- 2. 見学した企業: IBM (八千代台グランド)、ワールド (人工芝工場、岸和田)

DATA

- 1. 総工費概算 8千万円、 工期3ヶ月
- 2. フィールド人工芝面積(65 ミリロングパイル)10,582 ㎡ 3. 競技用埋め込み式ライン:サッカー、ラグビー、アメフト、 女子ラクロス、ハンドボール用
- 4. グランド周囲の泥対策用の人工芝面積(19mm) 674 m 5. 付属設備: ラグビーゴール(アルミ製)高さ 10 m、サッカー ゴール(アルミ製)/競技用フラッグ、パイロン、アメフト 司令塔用基礎、ゲームクロック、プレークロック/メンテ用 トラクター、ブロアー、移動式ひな段、ベンチ、物置、倉庫、 得点板、AED

相次ぐ現役スポーツ部からの感謝の言葉

フィールドを使用するクラブ現役主将から、 皆様のご支援に関し、感謝のコメントをフ ィールド人口芝化推進協議会宛にもらって います。人工芝の効果は絶大のようです。 字数の関係で、簡略にご紹介しますと、全 クラブ共に、土埃、泥濘から解放され、衣 服は汚れなくなり、擦過傷などが減りまし た。硬い土と違って、弾力性の富むグラン ドとなったことにより、倒れ込む、飛び込 むなどのプレーが大胆にできるようになり、 早速成果の出たクラブもあり、モチベーシ ョンがあがったと喜んでいます。また競技 用ラインがあらかじめ埋め込んであるため、 従来石灰で書いていた作業が無くなり、そ の分、より練習の質を上げられるというの も共通して嬉しいことのようです。特に、

女子ラクロスでは人工芝以外で公式戦が認 められていないため、今まで他校でしか出 来なかった試合をホームでも開催できるよ うになったと報告しています。コメントを 寄せてくれたクラブは下記の通りです。原 文を協議会HP (http://www.icuatpc. org/) に掲載しています。

アメフト部主将朝日田航一(ID14) サッカー部主将北川雄貴(ID15) ラグビー部主将山口大河(ID15) 女子サッカー部主将信原史佳(ID16) 女子ラクロス部主将沢田奈緒子(ID14) チアリーディング部主将北坂映梨(ID15) ハンドボール部主将山田公威(ID15) フライングディスク部代表立岡恒治(ID15)



ダイナミックな動きとスピード感のあるゲームは、実際に見る と実にエキサイティング!

100分間走って、投げて、跳ぶ だから"究極"=Ultimate

アルティメットは、フライングディスク(通 称フリスビー)を使用した1チーム7人制の競 技スポーツで、現在PEの授業にも取り入れら れている。コートの長辺はサッカーとほぼ同じ で幅がおよそ半分、両端にエンドゾーンを設け た形で、チームはフリスビーをパスでつなぎ、 敵陣のエンドゾーン内で味方がパスをキャッチ した時点で得点となる。パスがインターセプト されたり、ディスクが地面に落ちた場合は「タ ーンオーバー」となり攻守を交替する。試合は 17点先取で、およそ100分が基本。(詳しくは http://www.japanultimate.jp/web/index.php/ introduction/history 参照)

選手は100分間フィールドを走り続ける持久 力に加え、投げる、跳ぶといった様々な身体能 力、さらにチームワークを必要とするため、 ultimate—究極のスポーツ—と呼ばれる。

日本代表は男女ともに世界トップレベルにあ り、女子日本代表は去年の世界大会で優勝して いる。U-23 とはいえ、世界のトップに限りな く近いレベルの日本代表チームにICU生が参加 しているとは、驚きを禁じ得ない。

厳しい選考会を突破し、日本代表として世界 と戦ってきたのは、フライングディスク部ICU WINDSに所属する石井貴久さん(ID16)と、土 井かやのさん(ID15)。大会に出発する前の6月、 インタビューに応えていただいた。

大学から始めて日本代表に!?

ULTIMATE アルティメット U-23 日本代表選手を直撃!

ICUはスポーツの強豪校ではないが、このところ毎年のように日本代表に選手を送り出している種目がある。 それはアルティメット。この夏日本代表としてカナダのトロントで開催されたアルティメットのU-23 世界大会に参加した 二人の現役生を紹介したい。

取材・文 日下部洋亮 構成 栗山のぞみ(ともに本誌)



フェアプレーの奥深さ

石井貴久さんがアルティメットを始めたのは、 入学してすぐの頃、フライングディスクを投げ て遊んでいたらICU WINDSのメンバーに勧誘 されたのがきっかけだ。「アルティメットの魅 力は、プレーしても見ていてもエキサイティン グで面白く、一方で精神的にも奥が深いところ です。"Spirit Of The Game(SOTG)"と呼ぶの ですが、アルティメットには審判が存在せず、 SOTGのフェアプレーの精神に基づき、プレー ヤーが自分たちでジャッジします。世界レベル の大会でも同じで、審判がいない、しかし SOTGがある。それが他のスポーツにはない魅 力ですね!

試合を公正にかつ安全に進行する責任を各プ レーヤーが負う"セルフジャッジ制"でゲーム を成立させるには、相手チームとも協働しなけ ればならない。勝ち負け以上にフェアプレーが 重視される所以だ。

また、今はまだ競技人口が少なくチーム数も 少ないので、自然と他大学や社会人のチームと の交流も盛んになり、友達も増える。他チーム の練習に参加することも多く、ICUはとくに学 芸大との交流が深いとのこと。

日本代表に選ばれた感想を聞くと「プレッシ ャーは大きいです。監督の言葉は『最高で金、 最低でも金」。代表として多くの期待に応える







石井貴久(ID16)(写真左) 土井かやの(ID15)(写真右) 日本代表ユニフォーム姿のおふたり

ためにも、負けられません」ときっぱり。一方 で、「個人的にも本当に貴重な経験です。日本 全国から集まった優秀な選手たちから多くを学 びました。このチームで学んだことは必ず今後 に活かさなくてはいけないと感じています」と も語っていた。

2013年のトロント大会は通過点に過ぎない と言う石井さん。参加したミックス(男女混合) チームは堂々の3位、銅メダルを獲得した。「世 界一の選手になる」と語っていた彼の、これか らの活躍に期待したい。

プレーが決まると 最高に気持ちいい!

U-23 トロント大会で優勝まであと一歩の2 位となった女子チームで活躍したのが土井かや のさん。「スポーツが大好きで、野球、バスケ ットボール、スキー、乗馬、テニス、バレーボ ール、卓球など様々なものを経験してきました が、大学では運動部に入るつもりはありません でした。でも、友人に誘われてWINDSの体験 会に参加してディスクを投げたら、超楽しかっ たんです!」

その後練習に参加してみて、アルティメット は、多種類のスポーツを体験してきた自分に向 いていると直感。それは、運命の出会いだった のかもしれない。「アルティメットの醍醐味は、 一瞬一瞬のプレーにあります。シュート(ロン グスロー)が決まったときはもちろん、ダイブ

キャッチ (飛び込んでキャッチすること)、ダ イブカット(相手のパスの軌道に飛び込んでの インターセプト)ができたときも超気持ちいい んです!」

去年の11月に日本代表に選ばれてからは、 代表の練習と大学の勉強、WINDSの練習に加 えてアルバイトもこなす多忙さで、この半年は あっと言う間だったと言う。「でも、高いレベ ルの人達と一緒にプレーすることで新たな発見 もあり、自分に足りないものも見えてきました。 チームの中で自分のできること、求められてい ることを果たしたいですし

プレーしている土井さんは、とても楽しそう だ。見ているこちらも一緒にやってみたくなる。 「アルティメットはパスを繋いで得点を目指す のでチームワークが大切。究極のチームスポー ツだと思います。ぜひ一度見に来てください!」 と笑顔で誘ってくれた。

実は、アルティメットの全日本大学連盟の現 代表はICU生であり、日本アルティメット協会 の設立時から中核として関わる卒業生や、社会 人クラブに所属して「クラブチーム世界一」を 目指す卒業生もいる。学生チームICU WINDS は学連の競技会等に参加する他、ワールドゲー ムズなど国際的な大会が国内で開催される際に は、通訳ボランティアに参加するなど、裏方で も競技を支える。興味を持った方は、土井さん の呼びかけに応えて、応援に行ってみては?

高橋伸先生に聞く ICUとアルティメット

フライングディスク自体は、80年代か

くやっていましたね。チームの名前は確か それからICU WINDSになったのですが、

今では日本代表選手が出るくらいですから、 みたい」って言っていました(笑)。

思います。レクリエーション的に使ったり、 フライングディスクとしてPEの授業科 ポーツでしたが、2012年から中学校の学 ディスクゴルフをやったりしていました。 目に取り入れたのは意外と最近で、5,6 習指導要領に載ったり、高校の体育の授業 アルティメットがICUに入ってきたのは、年前です。冬学期に外でできるスポーツと 1990年代の初頭。当初はその競技のクラ して始めました。ほとんどの学生が初心者 がってきています。またアルティメットに ブではなくて、自転車部の中心でなんとななのでコツをつかめば上達を実感するため限らず、ディスクを使った他のスポーツも か、みんな楽しんでやっていますね。スロ OOPS! (ウップス)。1、2回練習試合を の練習は「投げて、取る。取って、投げ 本物の固いディスクの代わりに、ウレタン やって初めて出た公式戦がなんと1991年 る」というコミュニケーション。たくさん ゴムでできた柔らかいディスクを使ってド の9月に名古屋の木曽三川公園で行われた 練習をするうちに気付いたら仲良くなって 全日本アルティメット選手権!学生たちは いたりしますよね。それから、ディスクの 人気です。見るだけでなく一度やってみる お金がなかったので、夜行バスかなんかで 飛行特性も魅力で、風向きによって飛ぶ方 と、その魅力に気付かされるアルティメッ 行ってユースホステルに泊まったようです。 向が変わったりして、それを読むには頭も ト。ぜひ、日本のメジャースポーツの1つ 使うところも面白い。誰かが「犬になった になってほしいですね。(談)

に取り入れられたり、その認知度は年々上 人気が上がっていますよ。小学生の間では、 ッヂボールをやる"ドッヂビー"がすごい



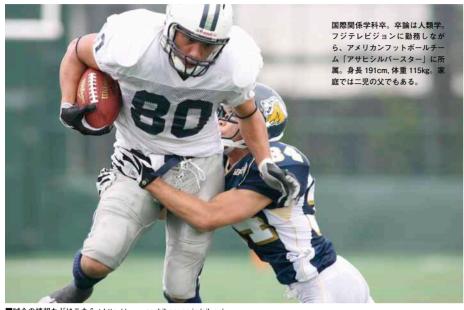
"しんさん"の愛称で学生たちから親しまれている高橋先生。

スポーツの世界で活躍する卒業生たち

「ICUはスポーツが盛んではない」そんな通説(俗説)からは離れ、卒業生の中には スポーツの世界で活躍している人たちがいる。そんな彼らのスポーツに対する思いや、 活動についてメールでインタビューした。

取材·文 野仲裕子(本誌)

島野 平 (50 ID06) SHIMANO, Taira アメフト選手



■試合の情報などはこちら: http://www.asahibeer.co.jp/silver/

ロック両方行うポジション)というところをや っています。 大学時代は、4年間アメリカン・フットボー ル部の「APOSTLES」に所属していました。 卒業後は、フジテレビジョンに入社し、現在は

『とくダネ!』という朝の情報番組や、ゴール デン帯の特番などでディレクターをやっていま す。働きながらアメフトのチームにも所属して いるわけです。就職が決まってから、いくつか の社会人チームから声を掛けていただいていた のですが、仕事への理解や、練習場所の兼ね合 いなどから今のチームを選びました。テレビの

仕事は時間が不規則で、徹夜になることもしば

現在、ビールメーカー・アサヒビールのフッ

トボールチーム「アサヒシルバースター」に所

属しています。選手生活は現在8年目を迎えま

した。ポジションはオフェンスのタイトエンド

(TE:タックルのすぐ外側でパスキャッチとブ

しばあります。そんな中での時間の調整や、体 力作りなどには苦労しています。

ICUはあまり体育会系のクラブ活動が盛んで はないですが、それでも4年間、いかに勝つか を考え続けたことは、社会人チームという、比 較的高いレベルに身を置いている今でも、自分 の大きな土台となっていると思います。また、 4年生の時に、当時の学長(前学長鈴木典比古 教授)のはからいで、大学側が、ワシントン州 立大学の現役選手たちを1週間、招聘してくだ さったのは、何にも勝る刺激として忘れられな い経験となりました。

スポーツを通しての学校のブランディングや、 仲間との一体感を味わえることはとても素敵な ことだと思います。少しでもいいので、スポー ツに興味をもってもらって、APOSTLESを応 援してもらえると嬉しいですし、僕も微力なが ら、お役に立てればいいなと思います。

2012年に日経カップ企業対抗ゴルフ選手権 で個人優勝しました。スコアは73でした。卒 業以来三井不動産で働いており、現在は上海で 勤務しています。

12歳の時にマスターズをテレビで見てゴル フに憧れて、ゴルフクラブを買ってもらいまし た。中学生になってからは、バスケット部の練 習が終わると、ゴルフの練習場に通う日々でし た。高校は「これからは海外で通用する人間に なってほしい」という親からの勧めもあって、 カリフォルニア州クレアモント市にある全寮制 私立高校、ウェブ・スクールに進みました。ア メリカの高校ではシーズンスポーツとして、春 から夏はゴルフ、秋はアメリカンフットボール、 冬はバスケットボールをやっていました。授業 が終わると、午後3時ごろから近くの市営コー スで練習、ラウンドという生活でしたね。この ときにゲームとしてのゴルフが身に付いたと思 います。

帰国後ICUに行こうと思ったのは、「ゴルフ コースを持っている大学」と聞いたから。でも その頃は、もう都立野川公園になっていました (笑)。ゴルフ部も大会に出るほど強くはなく、 近くの大学と対抗戦をやるくらい。それでも週 2回の練習、年4回の合宿やキャディのバイト など、通常のゴルフ部らしい活動はやりました よ。ここでプラスになったのは『ICUのゴルフ 部は語学ができる』ということで、来日したプ 口の通訳やアテンドのアルバイトができたこと です。とても近い位置で彼らの技術や考え方を いろいろ聞けました。なかでも1988年の日本 オープンでアテンドしたトム・カイトからは、 いろいろなことを学びましたね。

卒業後は三井不動産に入社しました。でも仕 事が忙しくて、週に1度ラウンドできるかでき ないかくらいでした。しばらくしてシンガポー ルに転勤になったのですが、シンガポールでは 政治家もビジネスマンもゴルフをするんです。 ですので、シンガポールではゴルフを通して、 ビジネスに役立つ情報や人脈がどんどん広がっ ていきました。2005年からは上海で勤務して います。中国の経済成長のおかげで、地元の人

青木重人(33 ID89) AOKI, Shigeto ゴルフプレイヤー



たちのゴルフ人口も増えていますね。ここでも ゴルフはビジネスや生活の上でも大切な人間関 係を作ってくれています。

社会科学学科卒。専攻は経営学。卒論は海外不動産投資につい て。卒業後は三井不動産に入社。シンガポールを経て現在は上 海勤務。1996 年全日本ヤングビジネスマンカップ団体・個人 優勝。シンガポールアイランドカントリークラブクラブチャン ピオン。2012 年日経カップ企業対抗ゴルフ選手権で個人優勝。

神村 恵(44 ID00) KAMIMURA, Megumi ダンサー・振付家



ダンサー・振付家。04年よりソロ作品を制作し始め、国内外の様々 な場所にて公演を行う。 06年より、神村恵カンパニーとしても 活動を開始。 10年7月、トヨタコレオグラフィーアワード 2010 最終選考会にファイナリストとして出場。 12年6月、英 国ブライトンに滞在・制作・作品上演を行う。 主な作品に「配 置と森」「飛び地」などがある。 方法論的なアプローチによる作 品創作とその中で表出する生々しい身体性が、注目を集める。

■公演情報

● 10/13 (日) whenever wherever festival にて「前後」パフォー マンス @森下スタジオ ● 11/16、17 (土・日) 「Room of Wonder にて、インスタレーション作品を出展予定 @トー キョーワンダーサイト渋谷 ● 12/25 (水) 音楽家とのコラボ レーション @両国門天ホール

■ウェブサイト: http://www.kamimuramegumi.info

ダンサー、振付家として、ソロや自分のカン パニー (神村恵カンパニー)、そして美術家と ユニットを組んだり、複数人のコラボレーショ ンに参加したりと、様々な形態で活動をしてい ます。 2012年9月には国立近代美術館で行わ れた[14のタベ]において、カンパニー名義で『沈 殿図』というパフォーマンスを行いました。ま た最近の公演としては、美術家とのユニット「前 後」で、今年の7月にニューヨークで公演を行い、 言葉と動きを同時に紡ぎ、それらをずらしてつ なげるような作品を上演してきました。

小さい頃からバレエを学んでいて、ICUでは モダンダンス部に所属。同時に照明委員会にも 入っていて、D館にも出入りしていました。将 来はダンスをやりたいという思いがあったので、 大学ではそれ以外のことをやりたくて、人文科 学科で宗教を専攻し、卒論はキリスト教の新約 聖書について書きました。卒業後の2000年9月 から、オランダのロッテルダムダンスアカデミ ーという学校で1年間学びました。留学生を多 く受け入れ、英語で授業が行われていて、テク ニック面での教育がしっかりしていたからです。 結局あまり学校にもオランダのダンスシーンに

もなじめず帰ってくることになったのですが、 自分が見たいと思うものは自分で作るしかない という思いが、振付を始めるきっかけとなりま した。

04年からソロ作品を発表し始め、徐々に評 価されるようになって、活動の場が広がってい きました。06年からは自分のカンパニーを立 ち上げ、グループ作品も制作・発表しています。 最近は、ワークショップをしたり文章を書いた り、イベントを企画するなど、ダンスを続ける ための環境を作っていくことも、意識して行っ

ICUでは英語を集中的にやっておいて本当に よかったです。そして、もっとやっておけばよ かった (笑)。海外の人との共同作業もたくさ んあるし、ダンスに関する文献も英語のものの 方が圧倒的に多い。ELPで繰り返しトレーニン グをしたエッセイの書き方も、今自分が考えを 組み立てたり、文章を書くときの基礎になって いる気がします。大学時代に友人と過ごしてい た時間も非常に貴重だったなと思います。今で も続く関係というのは、そういう特定の目的を 持たない、だらだらした関係だと思うので (笑)。

A People 水沢秋生 (42 ID98) Canta でいい加減だったける

これまでいい加減だったけど 書くことだけはゆずれない

みずさわ あきお (Akio MIZUSAWA) 兵庫県出身。現在、祥伝社刊「小説NON」にて、スクールカ -スト問題をテーマにした学園ホラー小説『カシュトゥンガ』

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

文・写真 青地あい(本誌)



台風が通り過ぎたばかりの夏のような 日、三浦海岸に水沢秋生さんを訪ねた。

「俺なんかでいいの?」と照れる水沢さん、 実は同窓生でもある。懐かしく変わらない 笑顔にほっとしながら、作品のこと、学生 生活から現在のことまで、いろいろとお話 を聞いた。

『ゴールデンラッキービートルの 伝説』とICU

水沢さんは『ゴールデンラッキービート ルの伝説』で第7回新潮エンターテインメ ント大賞を受賞し、本格的に作家デビュー を果たす。

これは大人へ踏み出す一歩手前のこども たち、小学生6年生のジュンペイ、ヨータ、 ヒナの3人が秘密基地の廃材置き場に捨て られたゴールデンラッキービートルという 宝物を中心に成長していく物語である。

子供たちにも社会があって、みんな窮屈 さや我慢を抱えながら日々を過ごしている。 ジュンペイは狭い部屋の中で母さんの金切 り声を聞きながら、でっかいグランドキャ ニオンの景色を思い描く。ヒナはあちこち ほつれた真っ黒な服を着て、ウサギ殺しの 犯人なんじゃないかと疑われている。ヨー タはスポーツも給食も苦手でしょっちゅう 先生に怒られている。周囲とうまくなじめ ないヨータは「いつかノロマでも足がおそ くてもいい国を、自分にぴったりの国を絶 対に探す!」と二人に宣言する。

ヨータが目指す『国』はどことなくICU の雰囲気と似ているような気がする。私た ちが学生だった頃のICUには、空気を読め ない人やちょっとヘンな人が当たり前にた くさんいた。

勉強はあまりしないダメな学生だった と、恥ずかしそうに当時を振り返る水沢さ ん。寮生だった水沢さんは、本を読み、ア ホな話をし、酔っぱらっては二日酔いとい う日々を送っていたという。ヨータの目指 す『国』とICUの当時の雰囲気について聞 いてみると、「こっちがいいとか悪いとか じゃなくて、こういう人もああいう人もい るっていう感覚はあった」他の大学を知ら ないから何とも言えないけれど、育った場 所も物の考え方も含めて、人間の種類は多 かったと思う。特に寮だと、三人部屋だし、 隠したいことも隠せないし、カルチャーシ ョックも多かった。背中の脂を落とすと風 邪を引くからって、冬場は断固として風呂 に入らないロシア人とか、ビールに一味唐 辛子と酢を入れて「これが故郷の飲み物」 と勧めてくるメキシコ人とか、日本語と英 語のごった煮で話す韓国人とか。面白いこ とだけじゃなくて、腹立つな!ってことも あったけど、体感としてわかったのは"い ろいろある"方が楽しいかって」

必要だったまわり道と時間

卒業後、大手出版社に入社しファッショ ン誌の編集に携わるが、半年ほどで退社し てしまう。「すごく忙しくて体がおかしく なって、それで「この仕事は果たして人を 幸せにするのだろうか」とか考え始めてし まって。けど今となってみれば、そもそも 会社員に向いてなかっただけかも知れない」 その後はフリーライターとして様々な仕事 をする。そこでも矛盾を感じながら仕事を 進めなければならないジレンマはずっとつ いて回る。

「いろんな場所に取材に行ったけど、バ ックステージっていうか、いろんな立場の 人の裏側の顔を見るのがおもしろかった。 すごく有名な人が、相手によって声のトー ンとお辞儀の角度がすごい規模で変わる瞬 間を目の当たりにしたり」

そんな中次第に生計を立てることが難し くなり、アルバイトをしながらライターを 続けた。「重いものを運ぶ仕事とか、イラ ッシャイヤセー!ってひたすらでかい声を 出す呼び込みとか、12時間ぐらい突っ立 ってる警備とか。31、2歳までそんな感じ だった。我ながらエンジンかかるの遅いな とは思うんだけど、本気で作品作りに取り 組んだのはその頃から。やっぱり文章を書 くしか自分には出来ないって分かったし」

作品に取り組み始めても試行錯誤の日々 が続く。何度書き始めても、なかなか納得 のいくものを仕上げることは出来なかった。 受賞作である『ゴールデンラッキービート ルの伝説』は2009年に取り組んだ作品で ある。

ここでようやく、水沢さんのなかにあっ たものが一気にかたちになった。

「実際に手を動かしていた期間は半年ぐら い。それが長いか短いかはわからないけれ ど、そこまでの三十年以上の人生があって の半年で、今まで見たこと、感じたこと、 それはうれしいことや楽しいことだけじゃ なく、みじめだったり、貧乏だったり、将 来どうしようって暗澹としたり、そういう 時間と経験が絶対に必要だった」

それから約2年間、折にふれ手を入れて いたが、かねてより敬愛する作家の恩田陸 さんが審査員を務める新潮エンターテイン メント大賞に応募、受賞にいたる。

現在は毎日、ほとんど人と接することな く執筆に没頭する生活。

一人でずっと向き合う仕事にはとても集中 力がいるだろうことは想像に難くない。

「他の人が一生懸命仕事をしたり、勉強し たりしている20代の頃にいい加減な生き 方をしていたし、まあ仕方ないかなと。そ れにこれをやめるともう、やることがなく なるので、辛かろうが苦しかろうがやめる わけにはいかない」

これまで水沢さんが生きてきたすべての ことが物語にいきている。今後の作品を一 読者として、また友人としてとても楽しみ にしている。

リレーPEOPLE

インタビュー:清水裕(本誌)

第6回 沂藤ゆかり(37 1093) イラストレーター

同窓生同士でバトンを渡していく本企画。前回 の石川裕美さんの合気道部での同期としてご紹介 いただいた。

白ふくろう舎という名で活動する近藤さん。代 名詞とも言える姫タッチをはじめ多様な絵を雑誌 等で展開している。絵は独学。10代の頃はすぐ に絵を描く職業につけなければいけないと考えて 自信をなくしたり、職業にすれば好きな絵も嫌い になるのではと案じたり、先を想像してブレーキ をかけ、プロになるのは難しいと考えたという。

本音と建前の違和感を 抱えつつ位置を築く

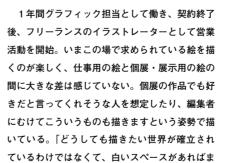
ICUでは語学科でコミュニケーションを専攻。 父の転勤で群馬、大阪、東京へと引っ越しをする うち、国内でも地域が変われば常識や気質、表現 方法も変わることを感じていたため、卒論では関 東と関西のコミュニケーションギャップをテーマ にした。ICUの、自分の尺度で物事を図ろうとせ ず、異なるものを客観的に眺めたうえで受け入れ ようとする雰囲気は、楽で居心地が良かった。

卒業後は好きが高じて菓子メーカーへ就職。学

生時代には理屈が正しければ通ると思っていたも のが、社会では必ずしもそうはいかないことにと まどいを感じたこともあった。その中でも得意な イラストでアピールをしたりと自分らしさも忘れ なかった。新人の頃、自分なりに考えてマニュア ルを作ったこともきっかけとなり、販売部から企 画部に異動。アイディアが形になるという希望の 仕事を早くに経験できた。ここでも個人としての 視点と企業としての目、様々な部署の意見を調整 しようとした時に起きる矛盾など、組織、企業な らではのおもしろさと難しさを体感した。

好きなことを仕事へ

社内のグラフィックデザイナーや、外注先のイ ラストレーターの存在を知り、菓子メーカー退職 後、絵を描いて仕事をするというところへ再び気 持ちが戻った。当時はゲーム全盛期。自身が全く 詳しくない世界だからこそ敷居の高さを感じず挑 戦した。9年近く絵を描いていなかったため高校 生の時に描いた絵を提出したが、それが会社が求 めるものと近かったこともあり、大手ゲーム会社



ずはそこに自分で絵をかきたい。」その感性は商

業イラストに向いていると自負している。

いま主にイラストを載せている雑誌は、すぐに 消費される気軽さがありつつ、一方で何年も手元 に置いて読み込まれることもある、両方の可能性 が面白いという。カットが得意だったことも相性 が良かった。ゲーム会社でのCG の経験やデータ 納品が求められる時代になったことも幸いし、始 めは着色の手伝いなど名前は出ない仕事で収入を 安定させることができた。また、フリーランスに なってからも、会社員時代の経験が生きている実

感があるという。









惚れ込むような絵を描きたい

最近では電車内や駅での広告にイラストが使用 され、普段雑誌を見ない人からの反応があった り、地方で出回っているものに載ると親戚に喜ば れたりと、様々な反響があって、やりがいも感じ る。現在近藤さんの関心が強いのはお菓子や化粧 品などプロダクツのパッケージだそうだ。モノを 買うと勝手についてくるパッケージは、実は多く の人の目に触れるので「知らず知らずのうち」も 含めて多くの人に届くものを作りつつ、誰かの心 にピンポイントで刺さるような絵を描きたい。そ こにマイナーなものもメジャーになりかねない可 能性を感じている。少しでも多くの人の目に触れ ることで、興味の無かった人にもいつか「これい いよね」と言われるような、結果として人の趣味 を広げるようなことができたらいい。そしていず れは「見た人がそれに恋するような、強力な魅力 のある絵を描きたい。」白ふくろう舎と言えばあ のイラスト、と人が思い浮かべてくれるような作 品をつくるべく活動されている。

次回は石山美恵子さんの予定です。

このメジャー、一体どんな勉強をしているんだろう……。

メジャーの一覧を眺めていて、ふと目に留まった「公共政策」という四文字を見て思ったことです。社会科学系の科目ということは想像がつくものの、 政治にも、経済にも、国際関係にも属さないこの分野は一体何なのか。それを突き止めるべく、大森佐和准教授にお話を伺ってきました。

文・写真 小林智世(本誌)



公共政策の問いは、 あらゆる分野に潜んでいる

私は2008年9月にICUに着任し、西尾隆教授とともに公共政策メジャーのクラスを開講しています。このメジャーの使命は、学生が公共政策に関する学術的な知識に加え、政策のバックボーンとなる思想や倫理観、そして立案・決定・実施・評価の政策プロセスについて考える機会を提供することです。これらを通じ、地域・国・国際レベルの公共的な諸課題に学際的に取り組める人材を育成することを目指しています。研究対象となるのは、役所の対応が悪いといったレベルの問題から、国連の意思決定はどうあるべきかといったテーマまで、あらゆる規模の公共的な課題やさまざまなアクターが果たす公共政策における役割です。

公共政策は、他の分野との関連なくしては成り立たない、広がりを持った分野です。一口に公共政策と言っても、教育政策、環境政策、医療・福祉政策など内容は多岐に亘っており、議論をする上では当然その分野の知識も必要になります。そういった性質上、公共政策メジャーが開講している講義はあまり多くありませんので、メジャーの学生には、行政学、政治学、経営学、開発研究といった関連の深い分野をはじめ様々な分野の授業を履修し、自分の研究テーマを見つけるよう指導しています。

理論と事例をバランスよく学ぶ

講義では、具体的な事例の学習と、様々

な公共政策を分析する上での基本的な理論 の学習を両方盛り込むようにしています。 あるべき公共政策とは何なのかを考えるこ とができるようになるには、個別の事例を 知っているだけでも、理論を理解するだけ でも不十分です。理論を理解し、その上で 様々な政策の導入事例・結果を客観的に比 較・検討することができて初めて、実社会 に対して効果のある公共政策が提言できる ようになると考えています。

私は講義で公共政策の事例を紹介する際、ディベートを取り入れたりしています。テーマは、TPP加入加盟の是非、IMFにおける各加盟国への投票権の割り振り方、子ども・女性の権利など、現実に起きている様々な問題です。当事者の立場に立って討論し合うことで、それぞれの問題の複雑な諸相への理解を深めることが狙いです。

また、ゲストスピーカーを招くこともあ ります。以前、比較政策行政論の講義で婦 人保護施設の施設長の方にお話をしてもら った際には、学生たちからの反響が大きく、 女性の権利を守る政策のあり方をより身近 な問題として捉えるきっかけになったと思 います。私自身も、過去にYMCAのスタデ ィツアーでフィリピンに赴いてアーバンプ アの現実から学ぶなどの経験をしたことで 公共的な課題への意識が高まり、現在のキ ャリアに繋がったと感じています。また、 実際のケースを理論的な知識と並行して学 ぶことで、個々の事例を詳しく知るだけで なく、他の事例と相対化したり、類似した 事例への対策に応用したりする発想も身に 着けてほしいと思っています。

卒論指導では、文献から学んだことのみを書くのではなく、調査や政策提言を盛り込むようにアドバイスしています。具体的には、卒論を書くにあたって、何らかの公共政策を変えようと活動しているNGOの方や、政策を実施する立場にある行政職員の方へのインタビューを盛り込むなどの方法を提案します。

このメジャーの学生には、何かの公共政策を変えるべきだと思った時、ただ今の政府や政策はだめだと嘆くのみではなく、理論や調査に基づき、理想に近づくための現実的な方法を考え提示できる市民になってほしいです。

研究を机上の空論で 終わらせないために

学生たちと接していて感じるのは、クリティカルに考える力がある反面、公共政策のあり方によって生活が大きく左右される人たちの実態を肌で知っている学生があまりいないということです。やはり、恵まれた環境できちんと教育の機会を与えられてきた学生が多いのだと思います。貧困な中で児童虐待が起きているという現実は想像がつきにくいようで、児童虐待のケースを複数回に亘って紹介したクラスでは、内容にショックを受けたというコメントが多数ありました。

もし将来、このメジャーから巣立った学生が公共政策の立案や実施に携わることになった時は、政策を決める政府や国際機関の中での調整だけを考えるのではなく、政策の対象となる現場で何が起きているのか

大森 佐和

OMORI, Sawa

1988年、鳥取大学農業研究科 獣医学修士課程修 了。2007年にUniversity of Pittsburghの政治学部 博士課程を修了(政治学博士)。東京大学社会科 学研究所機関研究員などを経て、2008年9月よ り国際基督教大学に着任。現在、教養学部アーツ・ サイエンス学科准教授。公共政策メジャー・開発 研究メジャー・法学メジャー担当。主な研究分野 は公共政策、国際政治経済、比較政治制度、金融 グローバルガバナンス、子どもの人権など。

を見極め、こうした政策の影響を受ける人たちの声を反映させ、あるいは連携しながら課題の解決に取り組んでほしいです。また、もし公共政策とは直接関係ない分野で生きることになったとしても、公の場で起きている様々な問題に対して一市民として何ができるのか、学んだことを思い出しながら模索し続けてほしいと願っています。

公共政策メジャーのデータ

●主なクラス(2013 年現在)

公共政策入門

政策過程と政治システム

行政学

国際公共政策論

比較政策・行政論

立法過程論

公共政策特別研究 など

●担当教員(2013年現在)

稲 正樹 INA, Masaki

西尾 隆 NISHIO, Takashi

大森 佐和 OMORI, Sawa

寺田 麻佑 TERADA, Mayu 吉田 文彦 YOSHIDA, Fumihiko

同窓会とは何か

構成・文 樺島榮一郎(本誌)

同窓会ってどんなことしてるの?と筆者もたまに聞かれます。 意外と一般の会員のみなさんにはなじみがないのかも知れませんね。 ということで知られざる同窓会の組織と活動に迫ってみました。

ICU同窓会は、1958年に設立され、現在は約2万5千人もの会員を有する大きな組織だ。定款によれば、同窓会の目的は、会員相互の親睦、国際基督教大学の発展への寄与、国際的な文化交流、の3つとなっている。その活動は広く、会員データおよび会費の管理、会報発行、支部活動、アラムナイハウスの運営のほか、奨学金の貸与や、大学の募金活動への協力、ドリームコンペなどの学生活動への支援、グッズの制作販売、DAYの表彰、ICU祭での活動、など様々だ。

近年は、同窓生の大学の在り方への関心が高いこと、また大学側からも積極的な関与を求められていることから、大学に関連する活動が増加している。会長が大学の理

事会の理事となり、理事が募金などのいくつかの学内委員会に参加するようになったほか、地方での支部会を大学の学生募集活動と共同で行ったり、同窓会の行事に理事長や学長が参加することも多くなっている。2月の大学の現状の説明する評議員会も、このような流れの中で設定されたものである。

同窓会で、アクティブに活動するためには、(支部活動を除けば)東京近郊に住んで、無給で、平日夜の会議や週末の活動を行えることが必要となるが、それが難しいか、そもそも、それほどの熱意や関心がない人が多いというのが実情であろう。筆者自身は、さまざまな立場の同窓生と出会い、真剣にやり取りして成長できる貴重な場であ

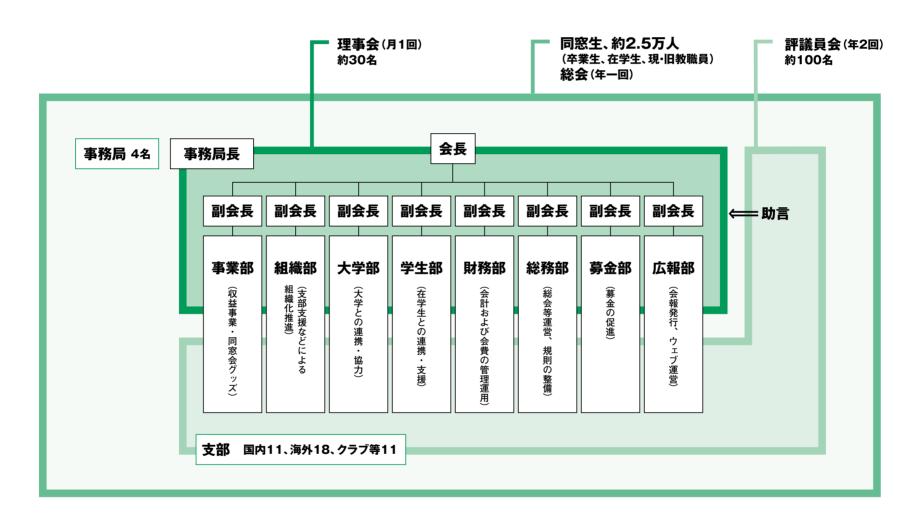
ること、やりたいことを実現して充実感を 味わえること、母校のために貢献できること、 いえ、これまでの同窓会の活動はまじめで はあったが、もっと気軽に参加でき、間 を広げるカジュアルさや(単純な)楽しる がもっとあっても良いのかも知れない。 のえば主婦支部や子育て支部などがあって、 お茶会やバーベキューなどの気軽に参う。 者が同窓会活動を始めたときの事業部で 「同窓生が繋がっている、それだけでいい んだよ」とよく言っていたが、正にそこが 出発点のように思えるのである。





アラムナイハウスの2階にある事務局。平日はだいたい3人 が勤務し、さまざまな実務を担う

本邦(いや世界的に)初公開!の同窓会組織図です。



🚳 🚭 お孫さまへの「想い」を形にしませんか? 🚭 🚭

教育資金贈与信託〈舜為為) 取扱中!

~贈与を受ける方は、お子さま、お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります~

贈与額1,500万円まで非課税

教育資金を一括して贈与する場合、お孫さま等お1人あたり 1,500万円まで贈与税が課税されません。

お子さま、お孫さま、ひ孫さまの教育資金として当社が管理します。

お孫さま等が将来にわたり十分な教育が受けられるように 教育資金として当社が管理します。

「教育資金贈与信託」の仕組み

- ●「教育資金贈与信託」は、30歳未満のお孫さま等への教育資金として当社の元本補てんのある金銭信託にお預け入れいただき、お孫さま等からの払出請求に基づき、当社が教育資金をお支払いする商品です。
- ●お預け入れ時に受益者であるお孫さま等から「教育資金非課税申告書」を当社経由で税務署宛てにご提出いただきます。

※お申込金額:5,000円以上 1,500万円以下(1円単位)/お申込期間:平成27年12月25日まで/運用期間中は運用信託報酬がかかります。



三井住友信託銀行

お問い合わせはお近くの店舗または以下インフォメーションデスクまで

0120-988-494

【受付時間】平日9:00~17:00(土・日・祝日および12/31~1/3はご利用いただけません)

三井住友信託銀行

同窓会役員はこんな人たちです

同窓会活動の中心となっているのは、会長と8人の副会長。顔の見える活動でありたいものです!

文 樺島榮一郎 (本誌)

現在、同窓会には8つの部があるが、それ ぞれの部の部長となり、活動の中心となる のが、各部を担当する8人の副会長だ。20 期(ID76)から47期(ID03)まで、年齢も、 バックグラウンドも、さまざま。本業の知 識や経験を生かして担当部の活動を行って いる人もいるし、同窓会の活動を行ううち に(10年以上活動している人もいる)担 当部内で昇格したり、横滑りした人もいる。 各副会長には補佐がつき、副会長が出席で きない場合や、活動の分担を担う。しかし、 やはり一番の重責は、会長だ。理事会、評 議員会のほか、大学の理事会や行事、大規 模な支部会などに出席するので、かなり忙 しいと思う。近くで見ていると、本当に会 長には頭の下がることが多いのである。



- 永渕光恵(ながふち・みつえ)
 (21 ID77)
- 2 会長
- ③ 同窓会の全体のとりまとめ、同窓会の 代表として諸行事・会議への出席
- 4 日本アイ・ビー・エム
- ⑤ 何故というと、やらねばならないこと、やりたいことが尽きないから、でしょうか?同窓会活動を通じてこそ知れる同窓会役員も含め、尊敬できる同窓生とのめぐり合い。



- 富岡徹郎(とみおか・てつろう)(26 ID82)
- 2 事業部
- ③ 同窓会グッズの企画、製作、販売
- 4 日本ヒューレット・パッカード (株) 経営企画
- ⑤ 同期会の世話役から発展して、同窓会 活動に関わるようになりました。世代を超 えた同窓生に会うことで元気をもらってい ます。



キャビネットメンバーに聞いてみました。

4 本業 5 なぜ同窓会活動をしているのか、

同窓会活動で得られたことなど

- 1 木越純 (きごし・じゅん)(27 ID83)
- ② 組織部
- ③ 同窓生の組織化、内外支部活動の支援
- ❹ J.P.モルガン、法人営業統括
- ⑤ 業界や世代を超えて魅力的な同窓生と 繋がる場、母校に有形無形の貢献をするチャンネルを作ります。



- 宮武久佳 (みやたけ・ひさよし) (G1983)
- ② 大学部
- ③ 同窓会の立場から「ICUの現在」を知る こと。
- 東京理科大・大学院教授(文化資源論)。
- ⑤ 比較文化・大学院に3年在籍しただけだが、25年の社会人経験(共同通信記者)で「ICUの深さ」に気付いた。恩返ししたい。



- 1 岡田庄生 (おかだ・しょうお)(47 ID03)
- ② 学生部
- ③ ドリコン、就職相談会等の運営
- 4 広告会社
- ⑤ 同窓会の中で一番学生の事を知っている、学生のためのチームを目指しています。



- 佐藤久恵 (さとう・ひさえ)(29 ID85)
- ② 財務部
- ③ 同窓会全体を支えるための種活動の予 算立て・決算管理、湯浅・細木奨学金面接 など
- 4 資産運用
- **⑤** 自分の本業以外の人との出会い・つながりを大切にしたい。



- 斎藤三穂 (さいとう・みほ)
 (20 ID76)
- ② 総務部
- 🔞 同窓会全体の円滑活動を支援する
- ❹ 個人事業主、IT研修講師
- ⑤ 同窓会会員全員が、興味を持ち参画できる同窓会活動が展開できるようにしたい。



- 内村 昌幸 (うちむら・まさゆき)(33 ID89)
- ② 募金部
- ③ イベント・事業収入からの寄付、募金 活動の支援
- 4 ITコンサルティング
- ⑤ お世話になったICUへ少しばかりの恩返し。多くの同窓生が持っているこうした思いを後輩達につなげられたらと。



- 樺島榮一郎(かばしま・えいいちろう)(37 ID93)
- ② 広報部
- ③ アラムナイニュース発行、web管理
- 4 大学講師
- ⑤ 僕にとって様々な立場の人と真剣にや り取りできる、学びの場です。この経験が 本業やいろいろな場面で役立っています。

同窓会活動を始めるには?

同窓会活動をはじめるためには、どうした らよいだろうか。一番ハードルが低いのは、 行事に参加することだ。一般の同窓生が参 加できる行事としては、3月末にICUキャ ンパスで行われる総会(桜祭り)と懇親会 がある。総会で行われるDAY受賞者の方々 のお話は毎年、非常に面白いし、懇親会で は意外な人との再会や交流がある。また、 支部で交流する、支部を作る、ということ もある。それぞれの地域支部ももちろんだ が、最近は、理学倶楽部(NSのOB)や、 ICU医療関係者の会、野球部OBOG会など の地縁以外の支部が増えている。なにか繋 がりがあるのであれば、自ら支部を作るの もいいだろう。さらに、事業部や広報部な どでは、評議員や理事でない一般の同窓生



も活動ができる。評議員は、支部長のほか、おおむね各期から1名以上が選ばれる。理事は、年齢や性別のバランスを見ながら、評議員や理事の繋がりから選ばれることが多い。活動に興味があれば、ぜひ事務局に連絡を。様々な同窓生の関与を期待する。







理事会潜入取材 レポート

東京のどこかで月に1度開催されている同窓会の理事会。 一体どんな人たちが、どんなことを話し合っているのだろう?

取材・文 佐々木淳子(本誌)

静かに雨が降る2013年6月19日(水)、 月例で行われているICU同窓会の理事会に 潜入し、その様子を取材してきた。同窓会 の理事会は、理事や副会長、会長が、ICU 同窓会の運営やイベントなどについて月に 一度集まって現状報告をしたり、話し合っ たりする場だ。今回の開催場所は永渕会長 のご主人がかつて経営されていた西新橋の カレー屋nagafuchi(東京都港区西新橋 3-5-1 TEL:03-5401-1271)。 夜7時からの 開催ということもあって、バイキング形式 の食事と飲み物が用意されていた。開始予 定時刻が少し過ぎ、出席予定19名の皆さ んがほぼ揃ってから、議長の発声で理事会 が始まった。

まずは、新理事の方からのご挨拶と、皆 さんの自己紹介。3期の方から、新理事の 56期 (ID12) の方まで、幅広い年代の卒 業生の協力で運営されていることに驚い た。それからは各人の活動報告の発表。そ して報告事項の後、審議に入る。この日の 項目は5つ。ICU祭でのアルコール提供の 可否についてや、募金のこと、同窓会活動 として行われた就職関連イベントのことな ど、議題はいろいろあるが、「同窓会として、 学生の皆さん、同窓生の皆さんに何ができ るか、どのように関わっていくのか」とい うことが基本となっていて、それぞれの議 題に対して、理事の方々から色々な意見が 出る。

最後の議題は9月の評議員会の討議テー マについてだった。この議論が、今回の理 事会において最も興味深いものであった。 まず、評議員会を担当する理事から、テー マについていくつかの案が出された。その テーマを巡り、議題の数から内容の是非に 至るまで、時にはストレートに、時には優 しく、理事の方々の間で様々な意見が交わ される。同窓会としての基本姿勢がありな がらも、色々な角度から述べられる意見、 また、自分の意見をまっすぐに述べるその 様子は、ICU生だった時代を思い起こさせ

るもので、卒業から何年が経過しても、ま た年代を超えても、一人ひとりを個として 尊重するというICUの特徴を改めて実感で きた。一通り意見が出揃ったところで、議 長がそれらをまとめ、最終的には挙手によ る多数決という民主主義的な形で決着!最 後にいくつかの報告があり、無事、終了予 定時刻21時を前に、全ての議題を終え、 終了となった。

今回、同窓生の一人として同窓会につい て考える機会を得て、同窓会を身近に感じ ると同時に、積極的に同窓会と関わってい くことができれば、自分にとっても様々な 可能性があるのではないかと感じた。

腰痛、頭痛、姿勢を改善させて、 更に I CUに貢献する方法のご

私、佃 降は、ICU在学中に現在の妻が院長を務める品川のカイロプラクティック院に通院し、長年の 猫背や腰痛、肩こりが解消し、学業、サークル活動、海外旅行を楽しむことができました。進路を考えた 大学3年生の時に、みなさまの人生を豊かにするお手伝いができることを確信し、カイロプラクティックの 勉強を始め、大学4年生の時に三鷹で開業し、今日に至ります。ICUへの感謝の気持ちを込めて、ICU 関係者(ご家族含む)の初診来院の方がいらした場合は、初回料金7,000円の内1,000円分を I CU同窓会に 寄付をさせていただいております。体の調子を良くし、仕事に、学業に、子育てに、スポーツに楽しみ、 当院からICUへの寄付を通じて貢献頂ければ幸いです。



健康雑誌ゆほぴかで 佃隆考案のセルフケアが



小冊子ご希望の方は、メール、



ICU祭11年ボランティア参加 お電話でお問い合わせください。収益金は全て同窓会に寄付されています。

ファミリーカイロプラクティック

院長 佃 美香

三鷹院&品川院



院長 佃 隆ICU44期(#00)国際関係字科卒 オーストラリア公立マードック大学健康科学学部 カイロプラクティック学科卒 健康科学士(カイロプラクティック)

開院時間:火・木・金14時~17時、18時~20時30分 土(月2回):15時30分~16時30分

http://mitaka-chiro.com/icu



オーストラリア公立マードック大学健康科学学部 カイロプラクティック学科卒

健康科学士 (カイロプラクティック)

開院時間:月・水・金10時~12時30分、14時~16時 土(月2回):10時~12時30分、14時~16時

http://mitaka-chiro.com/mika

*初回初回:7,000円(検査・カウンセリング)*2回目以降施術:5,000円

評議員会から見えてきたICUの財政事情

同窓生の中から選ばれた評議員の人たちが集まる評議員会。今回は財政について話し合われた。

取材・文 野仲裕子(本誌)





(写真上)「持続可能な大学を目指して 財政状況の説明と今後の方針」と題して行われた北城理事長の講演 (写真下) 会場は、教授会が行われる、本部棟 206 号室。土曜日ということもあり多くの評議員が参加した

去る2013年2月2日に開催された同窓会評議員会にて、日比谷潤子学長と北城恪太郎理事長が、同窓会に大学の財政の現状を説明するため壇上に立った。ことのきっかけは、永渕会長の「大学のビジョンがあって、財政がある」という言葉。日比谷学長からは今年60周年を迎えた大学が、次の60年を迎えられるにはどうすればいいのかという大学の将来設計が説明され、その最も大切な柱として、大学施設の建て替えを挙げられた。

まずは本館についてだが、3・11の震災では一部内壁が落ち、耐震強度も不十分で、現在進めている耐震工事が完了しても、建物としてはあと10年ほどしか持たないとのこと。さらにこれからのエネルギー問題を考えると、効率の良い空調設備を本館に設置する必要があり、それにも多くの費用がかかる。またIT化も進み、それに伴う設備、マシンなども必要になってくるという話であった。

次に北城理事長から、全体の収支の話として、ICUの運営には年間70億円が必要だが、現在授業料や助成金などで入ってきている収入としては60億円。つまり毎年のように10億円の赤字を出し続けているという話が出る。また先に話題にのぼった施



評議員会に先立ち、湯浅八郎・細木盛枝奨学金(同窓会の貸与 奨学金)の授与が行われた。

設の建て替えについて、本館の建て替えに は40億円、N館には10億円、体育館には 10億円、教員住宅には26億円、寮には40 億円ほどが必要で、その他のものとあわせ ると経費は126億円ほど必要だそうだ。「明 日の大学」を掲げる大学の施設が「University of Yesterday」では実質が伴わない。また ダイアログハウスの新設からも分かるよう に、大学がテーマとしている「対話」を生 む環境を提供するには、教員と学生同士が 密に対話できるような施設や情報機器がこ れからは必要になってくる。学生寮も然り だ。他大学と比べ、また一般的には高いと 言われるICUの学費だが、時代に合わせた 教育クオリティを維持していくにはそれ以 上にお金がかかるとのこと。

赤裸々な金額の羅列だったが、大学の財政について考える良い機会となった。

参加された評議員さんの感想を聞いてみました。



3期、評議員、藤井厚子

FUJII, Astuko (3)

* De lit stock

評議員になって3年目。3期のなかでの申し送りでやってくれと言われたので評議員になったが、アラムナイの一人として、大学の実情を知ることができてすごく良かった。なる前は、今のICUは創立当時の情熱が薄れているのではないかと思ったが、いろいろな大学の方向性を学ぶことができた。今日キャンパスに来て、キャンパスを歩いて、この大学を守っていきたいと思った。同窓生が大学に関心を持って、自分が何ができるかを考えることが大切だと思う。

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5

Eメール:childfund@childfund.or.jp ホームページ: http://www.childfund.or.jp/



13期、評議員、岩田岳久

IWATA, Takehisa (21 ID77)

美術部OB支部の支部長として、4月の総会で正式に評議員になる予定。アラムナイ・ニュースや大学報だけでは分からないことが、学長や理事長の話で大学のありようなどが分かって、よかった。今後、やりたいのは、これまでで知ったことを、まわりの同窓生にフィードバックしていくということ。また、美術部OB支部といっても、学生も含めて、入っていない人も多い。そういう人に認知してもらうきっかけになり、交流の場として、ICU祭で行った学生とOBの合同展などを継続して行っていきたい。







第8回 DAY賞表彰式

取材・文 小林智世・樺島榮一郎(ともに本誌) 写真 一之瀬ちひろ(本誌)

今年で8回目を迎えたICU桜祭り。

旧友との再会、活躍する同窓生との新たな出会いなど、

今年も会場のあちこちで様々なドラマがあったようです。

例年より開花の早かった桜が散るか散らないかの瀬戸際を迎えていた3月30日、大学礼拝堂で2013年桜祭りが開催された。大学オルガニスト菅哲也氏のオルガン演奏の後、ICUOGC合唱団・ICUメサイア関係者・卒業生有志によるハレルヤコーラスが披露され、司会の小松靖氏(41 ID97)が開会を宣言。ICU教会名誉牧師の古屋安雄氏による開会祈祷のあと、桜祭り第一部(同窓会総会・DAY賞表彰式・卒業50周年記念式典)が行われた。

同窓会総会では、同窓会会長の永渕光恵 氏(21 ID77)が、2012年度活動報告および2013年度活動予定を発表。同氏は、 2011年に震災復興イベントとして行われた東北リユニオンを受けてか、今年度は支 部活動がさかんになったと振り返った。また、2013年度には、働いている同窓生と現役学生の出会いの場となる進路説明会を年1回から2回に増やすことや、寄付を推進するためのITインフラ整備などの施策を行い、同窓生の満足だけでなく大学の発展にもつながる同窓会活動を今後も推進してゆきたいと語った。次に同窓会財務部担り、2012年度の決算報告および2013年度予算案の説明があり、続いて前出の永渕氏よりの議案は、いずれも出席した同窓生および事前に寄せられた委任状によって承認された。

総会に続き、DAY賞表彰式が行われた。

選考委員長の石塚雅彦氏(7) より挨拶と 講評があり、受賞者7名の功績が紹介され た。そして前出の永渕氏が、受賞者に表彰 状と記念品を贈呈。受賞者はそれぞれ短い スピーチを行い、ICU生時代のエピソード や今の思いを語った。

卒業50周年記念式典では、今年で卒業50周年を迎える7期が表彰を受けた。チャペルに集まった7期生は74名で、7期生全体の半分以上が出席。永渕氏も、祝辞の中でこの団結力の強さを称えた。期を代表して記念品を受け取った永冶健氏(7)は、「7期は"1"と"C"と"U"の滋養を吸い、風雨に耐えて成長してきた。これからも、残された日々に花を咲かせてゆきたい」と語った。ICU理事長の北城恪太郎氏と学長の

日比谷潤子氏から祝辞が述べられ、讃美歌 斉唱と祈祷ののち、第一部は閉会となった。第二部の懇親会は大学食堂で行われた。乾杯の音頭をとった同窓会沖縄支部長の新崎盛太氏(43 ID99)は、沖縄の方言で乾杯を意味する「カリー!」という掛け声でグラスを掲げ、会場を盛り上げた。同窓生たちは会場のあちこちで、旧友との再会を喜び、学生時代の思い出話に花を咲かせていた。また、学生サークルModern Music Societyの学生たちによるジャズの演奏や、ピースベル奨学生の挨拶の折には、現役学生の頑張りに温かいまなざしで応える同窓生の姿が数多く見られた。









DAY賞受賞者に、同窓生に向けてのコメントをいただいた。



上野田鶴子

UYENO, Tazuko (2)

過去、DAYは、多岐にわたる分野、期の方々が受賞されており、日本語教育の分野で名を連ねることができ嬉しく思います。同窓の方々に感謝いたします。神戸女学院出身で初めてICUに進学し、そこで出会った日本語教育が進路決定に大きな影響を受けました。現在は、NPO日本語教育研究所の理事長として、在日外国人に対する地域の日本語教育等、多様化する日本語教育と社会に資する道を模索しています。

ICU 助手時代、ミシガン大学に3年留学し、招聘で3年講師を務め、1971年に学位取得(Ph. D. in Linguistics)。その後東京大学医学部音声言語医学研究施設講師として認知言語学研究に従事。この間、ミドルベリー大学夏期日本語学校教授・ディレクターを経験。国立国語研究所日本語教育センター設置年より研究室長、その後日本語教育指導普及部長を務め、東京女子大学現代文化学部開設に際し教授(対照言語研究、日本語教育研究担当)となる。68歳定年を迎えた後、放送大学客員教授を務め、現在は特定非営利活動法人日本語教育研究所理事長。



酒井忠昭

SAKAI, Tadaaki (6)

3学年までICUに在学し、千葉大学医学部に移りました。その後、都立駒込病院に勤務しているときに、「ICU 医療関係者の会」を組織しました。在宅ケアの質の向上を目指す現在のNPOは、同窓の4人の仲間が役員として協力してくれて実現することができました。その点で、彼らと共同の受賞だと思っています。今回の受賞をきっかけに、今後を担う若い人が現れることを願っています。

1967 年千葉大学医学部卒、慶応義塾大学外科入局、1975 年都立 駒込病院呼吸器外科、1978 年同医長、1982 年学位取得。1994 年同病院ターミナルケア、在宅診療担当。1996 年〜ライフケア システム・水道橋東ロクリニックで在宅診療に携わる。2002 年 英国で在宅ケア、ホスピスの側査・研究。2007 年 月 在宅ケ アの普及と質の向上のために看護師主導の多職種連携による包括 的在宅ケアを目標とする NPO ホームケアエクスパーツ協会を設 立。多くの同窓・同士の支援を得て、高齢者、がん患者の在宅で の療養の継続とポジティブ・ウェルフェアの実現をめざす。



小山修三

KOYAMA, Shuzo (7)

キャンパスで拾った縄文土器のかけらが 私を考古学の道に押しやりました。先輩方 のように社会に身をなげうったのではなく、 好きなことをやってきただけです。「この 道一筋」という学者像とは異なるかもしれ ないが、私が精一杯、「現実」に対応でき たのは、ICU 建学のチャレンジ精神とリ ベラルアーツ教育のおかげです。長くやっ ているとこういう賞をもらえるのだと思い ます。ありがとうございました。

1939 年香川県生まれ。考古学者。国立民族学博物館名誉教授。国際基督教大学人文科学科卒。國學院大學大学院文学研究科、カリフォルニア大学デイビス校大学院を修了(Ph.D)。1976 年から国立民族学博物館に勤務、2002 年に定年退官。その後、2004 年から 2012 年まで映田市立博物館館長をつとめた。主な著書に、『縄文時代』(中公新書)「狩人の大地ーオーストラリア・アボリジニの世界ー」(雄山閣出版)「縄文学への道』(NHK ブックス)「縄文探検」(中公文庫)「森と生きる」(山川出版社)「梅棹忠夫 語る』(聞き手・日経プレミアシリーズ)など。



有馬利男

ARIMA, Toshio (10)

ICUを訪れて、桜の木が自分のいた頃よりずいぶん太くなっていることに驚きました。学生時代、そして創業間もないベンチャー企業に就職してサラリーマンとなってからも一貫して考えてきたのは、企業は何のために存在するのか、ということです。私がDAYを受賞したことで、かつての自分のように小さくても夢のある企業に就職した学生が「ずっと思いを貫いていたらほめてもらえるのかな」と思ってくれたら嬉しいです。

1967 年国際基督教大学教養学部卒業。同年富士ゼロックスに入社。総合企画部長、米国ゼロックス・インターナショナル・パートナーズ CEO、富士ゼロックス代表取締役社長を経て、2012 年 4 月から現職。社長在任時に経営改革を推進する一方、「企業品質」コンセプトを打ち出すなど、CSR 経営に尽力した。2007 年 7 月 国連 グローバル・コンパクト ボードメンバー、2010 年 10 月 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム 共同代表理事、2011 年 キリンホールディングス株式会社など数社の社外取締役に就任し、企業と社会的な活動を広げている。 現職:富士ゼロックス株式会社 イグゼクティブ・アドバイザー。国連グローバル・コンパクト ボードメンバー。一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク代表理事。 認定 NPO 法人ジャパン・プラットフォーム 共同代表理事。



朽木ゆり子

KUCHIKI, Yuriko (18)

普段はニューヨークでノンフィクションを執筆していますが、書く作業は孤独なので、こうして沢山の人に祝っていただけて嬉しいです。人と違う視点を持つ大切さをICUで学んだことが、競売中心のアメリカ美術市場、盗難、贋作、個人蒐集家など、日本であまりとりあげられない美術の側面をジャーナリストとしての視点で捉えるという今の仕事に繋がりました。今後も斬新な切り口を大切にするつもりです。

1950年東京生まれ。日本学術振興会奨学金を得て、77年9月より80年5月までコロンビア大学(ニューヨーク市)大学院で国際政治学を学ぶ。帰国後はフリーランス・ジャーナリスト、翻訳家として活動。1887~1992年エスクァイア日本版副編集長。1994年からニューヨーク市在住。2000年に初著作[盗まれたフェルメール」(新潮社)を上梓。それ以降、ノンフィクション作家として、主として美術に関連した題材を、歴史・政治的な視点と納密なリサーチで書いている。主な著作に「パルテノン・スキャンダル」(2004年、新潮社)「フェルメール全点踏破の旅」(2006年、集英社)「ハウス・オブ・ヤマナカ 東洋の至宝を欧米に売った美術商」(2011年、新潮社)など。



陳 新滋

CHAN, Albert Snu Chi (19)

It is a great honor to be a DAY awardee! When I studied at ICU, I was frequently impressed by the hospitality of the professors. The care and love I received from them helped me greatly in my studies. The Liberal Arts education at ICU formed a solid foundation for my career as a scientist and an administrator. Thank you.

香港浸会 (バブチスト) 大学第四代学長。1975 年国際基督教大学卒業。シカゴ大学にて1976 年修士学位、1979 年博士学位を取得。その後、モンサント社 (Monsanto Corporate Research Laboratories)の科学研究主幹を歴任し、Monsanto Fellow に昇格。1992 年から 1993 年まで台湾大学の客員教授に着任。1994 年香港理工大学応用生物及び化学技術学部の主任教授、学部長を兼任後、同大学の応用科学及び紡績学院の院長を経て、副学長に就任。アメリカの特計 22 件、中国の特計 18 件を取得し、発表した500 編以上の論文の機つかは一万回以上引用されている。2001年に中国科学院のアカデミー会員を授与された。



粉川 直樹

KOKAWA, Naoki (20)

人道支援の現場で、34年間仕事をしてきました。私は決して有名ではないですが、今回 DAY に選んでいただき、ずっとやってきたことを見てくださった方がいたんだなと嬉しく思います。実は15年前から、環境に配慮した生活を実践するべく、暮らしを自給自足に近づけているんです。仕事でもプライベートでも、環境、食糧、エネルギーといった世界の諸問題にどう対処すべきか模索し続けたいです。

1979年、タイ国境におけるカンボジア難民以来、33年間、赤十字の国際救援に携わる。ソマリアでの難民(81~82)、ネパールでの開発事業(83~89)、スリランカでの国内避難民(89~91)、エチオピアでの難民・国内避難民(91~93)等の支援活動を経て、ジュネーブの国際赤十字赤新月社連盟本部で中近東担当デスク(93~97)、その後、日本赤十字社で国際救援を指揮、その間、インドネシアでスマトラ津波の復興支援(05~06)、マレーシアにて連盟アジア太平洋地域災害部長(06~08)などを経て、今日に至る。東日本大震災では国際社会から寄せられた600億円の救援金に対するドナー対応に追われる。

7期生、50周年に寄せて

文=土屋隆一(7)



3月30日、同窓会主催の7期生 「卒業50周 年」リユニオンには、入学時 162名の内 (欠席・行方不明・物故) 者を除いた74 名が参加(内5名が海外から参加)。記録 によれば、過去最大の参加者との事。「"兎 角群れたがる7期生"の面目躍如だね」 と揶揄されながらも、再会の喜びに浸っ た。代表して答辞を述べた永冶健氏のユ ーモアとウイットに富んだスピーチは、 はなから笑いを呼んだが、締めもしっか り決め、"Effective Speaking" Aを証明 した。北城恪太郎理事長の「来年もこの メンバー全員でお集まり下さい」とのお 言葉に頷き合った。我々を育ててくれた 母校への感謝と愛を再確認したひと時で 有った。改めて同窓会に心から感謝を申 し上げたい。

ICU FESTIVAL 2013

今年のICU祭は 「写真café」です!

今年のICU祭も盛りだくさん。 銀座の同窓生のお店から取り寄せた料理に、 卒業生3人によるアカデミック・トーク。 大学のホームカミング・デイも同じ日に開催されます。

文·堀 龍太(48 ID04、ICU祭担当理事)

1954年から行われてきたICU祭。54回目となる今年は、11月2日(土)、3日(日)の2日に渡って開催されます。もちろん!同窓会でも、同窓生のみなさんに楽しんで頂ける企画を準備しています。昨年は「ワイン&ミュージック」をコンセプトにし、好評を博しました。今年のコンセプトは「写真café」。アラムナイハウスで、ICUワインやあたたかい飲みもの、おいしい食事とスイーツを楽しめます。さらに、プロカメ

ラマンとして活躍中の同窓生による入門講座、学内撮影ツアーが行われます。そして、今回のメイン企画。「ICUフォトコンテスト」。これまでにICUで撮られた写真の中から最高の一枚を決めたいと思います。当日の投票で大賞を決定し、大賞作はアラムナイニュースに掲載されます。さらに豪華副賞も。あなたがICUで撮った思い出の写真を大募集。詳細は同窓会HPに掲載しますので、ぜひチェックして下さい。

(写真上) 本館前テントで行われた「子ども縁日」も盛況 (写真下) 昨年の ICU 祭のアラムナイハウスの様子。生演奏やワイン、油そばなどを目当てに多くの人が集まった





A_Goods

グッズ紹介

同窓会新グッズ ぞくぞく誕生!

同窓会では、献学60周年を記念して特別グッズを商品に追加しました。 在学生や同窓会事務局スタッフがデザインしたオリジナル商品やロゴの入った商品です。 学内の三省堂書店、同窓会事務局にて販売しています。

1)桜スカーフ

桜をモチーフにした絹スカーフ。 横浜伝統スカーフの (株)丸加製で光沢のある"しっかり&しっとり"とした生地です。 色はピンクと黒の2色。86cm×86cmの使

色はピンクと黒の2色。86cm×86cmの使いやすい正方形で、ICU同窓会のロゴが入っています。限定50枚。価格は1枚5,000円です。

2) ICUベア ぬいぐるみ

ICUのロゴTシャツを着たくまのぬいぐる み。Cap & Gownで登場です。価格は 2,980円です。Tシャツだけの小さなくま のバージョンもあります。価格は1,280円 です。Cap & Gownくま:座高17cm:横幅17cm。小さいくま:座高14cm:横幅

3) トートバッグ

在校生(根来桜さん ID15) がデザインしたトートバッグ。汚れにくいポリエステル製で、肩にかけても、手に提げてもちょう

ど良いサイズ、30cm×39cm。(取っ手含まず) 底マチ3cm。B4が入ります。価格は400円です。

4) モルトボールペン

黒・赤2色のボールペンとシャープペンシルが合体した便利なペン。グリップ部分は、100年の歴史のあるモルトウイスキーの樽から作られています。グリップ部分は、ベージュと茶色の2色。同窓会ロゴとInternational Christian University の名前入りで価格は1本1,000円です。全長15cm。

5) ICU建物シリーズ・クリアファイル

大好評のICU建物シリーズ第2弾は、アラムナイハウス柄と教会柄のクリアファイル。アラムナイハウス2階で働く同窓会事務局スタッフの岡田路子さんのデザインです。サイズは31cm×23cm。価格は1枚200円です。





山内さんを除いてすべて女性となり「ジェンダーバランス悪いなぁ」の声も

国会で活躍する同窓生が一同に

時は年度末の国会会期中、忙しい時間の合間に6人の議員さんと学長、同窓会長が集まりました。

写真・文 樺島榮一郎 (本誌)

2013年3月28日午後6時、国会横にある 衆議院第二議員会館の面談室に集まったの は、大河原雅子さん(20 ID76)、牧山ひろ えさん(30 ID86)、山内康一さん(40 ID96)、 牧島かれんさん(44 ID00 G2008) の4人 の国会議員と日比谷学長、永渕同窓会会長。 6人もいるICU卒の国会議員で一度集まっ てみようという、山内さん発案のこの企画、 かなりのピンポイントでこの日時なったも

のの、委員会の採決がある牧山さんはすぐに退席、同じ委員会の行田邦子さん(32 ID88)と有村治子さん(37 ID93)も、後から合流ということに。さすがに、国会会期中の議員さんは忙しい。「参院と衆院は交互に忙しい日があるけど、今日は参議院が忙しい日なんですよ。」と山内さん。大河原さんや山内さん、牧島さんに、議員になったきっかけや、ICUとの関係などの話

を聞きながらも、果たして全員揃うのか心配になる。しかし、ほどなくして、委員会を終えた行田さん、有村さん、牧山さんが駆けつけ、晴れて6人そろって記念撮影、その後、さまざまな話に花が咲いた。多くの議員さんが指摘するのは、ICUでの異文化体験や、それによって培われた動じない心、寛容さ、ICUならではのこころざしが、議員になるきっかけとなったり、議員活動

で役立っているということ。議員さん以外にも政策秘書などとして活動する数人のICU生がいて、若い同窓生を中心に、候補者公募にも応募があるそうで、国会支部の設立を目指そうという、冗談ともつかぬ声も。ICUと政治は、意外に相性がいいのかもしれないと、新しいICUの教育の側面を発見した時間となった(役職等は2013年3月28日時点のもの)。



大河原雅子 (参院·東京都·民主党)

OOKAWARA, Masako (20 ID76)

政治家になるつもりはなかったが、市民活動のなかで推されて東京都議となり、議員へ。在学中はラグビー部マネージャーとして「グランドにばかりいた」。



牧山ひろえ(参院・神奈川県・民主党)

MAKIYAMA, Hiroe (30 ID86)

インターナショナルスクールからセプテンバーとして ICU に入学。以後、TV ディレクターや 米国弁護士、二児の母親を経て政治家へ。グロ ーバル化が進む中、国際コミュニケーションツ ールとして、英語教育に光を当てていきたい。



行田邦子(参院・埼玉県・みんなの党)

KODA, Kuniko (32 ID88)

転職先で契約社員となり、非正規雇用の問題に 直面、労使だけでは解決できないと政治の世界 に飛び込む。「今考えると怖いもの知らずだっ た」。在学中は写真部部長、西尾隆先生のゼミ 出身。



有村治子(参院·全国区·自民党)

ARIMURA, Haruko (37 ID93)

父が県議だったこともあり、留学、会社員を経 て博士課程在学中に、自分たちの未来の意思決 定に参加したいと、出馬。第四女子寮での留学 生との生活の経験が今も役立っているという。 西尾ゼミ出身。



山内康 - (衆院・北関東比例・みんなの党)

YAMAUCHI, Koichi (40 ID96)

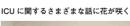
唯一の男性議員。途上国援助の仕事がしたくて ICUに入学、卒業後はJICA→NPO→留学 →JICA。ロビー活動などの経験から「政治家 を説得するよりも、自分がやったほうが早い」 と、候補者公募に応募、議員となる。



牧島かれん (衆院・神奈川17区・自民党)

MAKISHIMA, Karen (44 ID00 G2008)

父が政治家だったこともあり「生まれたときから政治は身近」。政治学を専攻するつもりはなかったが、西尾先生との出会いもあり、卒業後、留学して大統領選挙の研究を行う。研究から現場を志し、議員に。





From the University President's Message

大学のページ

当ページでは、これまで大学ニュース・イベントのお知らせしておりましたが、今号より学長のメッセージを皆様にお届けいたします。 大学ニュース・イベントのお知らせにつきましては、オフィシャルICUサイト(www.icu.ac.jp)をご覧ください。



献学60周年を迎えて

1953年、『神と人とに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資すること』を目的として、献学されたICUは、今年2013年に献学60周年を迎えました。

私たちはこの節目に、献学の経緯や当時の方々の願いに思いをはせ、これまで大学を支えてくださった方々への感謝を示し、献学の理念をさらに深めていくために、2013年を中心に2011年4月から5年間を献学60周年記念事業期間と定め、事業の統一テーマ「ダイアログ(対話)」のもと、「アカデミック・プログラムの充実」、「施設およびキャンパス環境整備の推進」、「アドヴァンスメントの推進」の3つを柱に、様々な取組を進めています。

アカデミックプログラムの推進

アカデミックプログラムとしては、5つのフォーカス「大学の使命・創業者との時空間を超えた対話」「分野間の対話」「少人数教育における教員・学生間の対話」「文明間・宗教間の対話」「東アジアにおける対話」を設け、これまでに様々な講演会や

国際シンポジウムなどを開催しています。 今年度の活動としては、宮川繋教授(マサチューセッツ工科大学、言語学)とM.ウィリアム スティール教授(ICU、歴史学)の2名を献学60周年記念教授として招聘しました。

宮川教授は、言語学の教授であると同時に、大学で正規に提供された講義とその関連情報をインターネットで無償公開する「オープンコースウェア (OCW)」の創始者の一人であり、世界のOCWの発展に貢献した功績により、the OpenCourseWare Consortium, the President's Awardを受賞しています。授業では、歴史を画像から読み解いてゆくという新しいアプローチを学生に教示いただいているほか、2013年4月より公開を開始したICUのOCWの顧問を務めていただき、様々な面からご助言を下さっています。

一方、スティール教授は、1976年に本学に着任して以来、近代日本の社会・思想・政治史、とりわけ明治維新前後の庶民生活を研究の中心としています。ICU献学の理念とその歴史を近代日本社会の歩みの中でとらえるコースや、リベラルアーツの歴史

とその意義を、中世ヨーロッパから現代に 至る世界史的な視野から考察する講義が行われます。

続いて6月には、「献学60周年記念礼拝」と「ICU・カリフォルニア大学(UC) 国際教育交流50周年記念イベント」を開催しました。記念礼拝では、ICUの献学から今日までに深い関わりを持つUnited Board(アジア基督教主義高等教育支援財団)のマイケル・ギリガン理事長を説教者としてお招きしました。ギリガン氏からは、あらためて今日のICUを築いた先人への感謝と大学の原点に立ち返る重要性を思い起こさせる、大変素晴らしいメッセージをいただくことができました。

そして、6月24日から26日にかけて開催 した、カリフォルニア大学(UC: Univer -sity of California) と本学の国際教育交流 50周年を記念したイベントでは、両大学 の国際教育交流を振り返りつつ、インター ンシップやサービスラーニングを組み込ん だ新しいプログラムの可能性について議論 を行いました。またイベントの中で、桜の 植樹が行われました。ICUの正門から大学 礼拝堂に向けて伸びる桜並木(マクリーン 通り)の106本の桜は、50年を超える年月 を経て老朽化が進み、植え替えの時期に差 し掛かっています。そのため、交流50周 年を記念し、UCから桜の苗木1本が贈ら れ、植樹されました。植樹された桜(正門 を入り右手2本目の樹木です)の前には、記 念のプレートも設置しています。本学へ足 をお運びの際にぜひご覧ください。なお、 その他の桜の木についても、老朽化の激し い樹木から順次植え替えなどを行って参り

その他、9月に「カウンセリングセンター 50周年記念シンポジウム」を開催し、12月には「サービス・ラーニング・シンポジウム」の開催も予定しております。

施設およびキャンパス 環境整備の推進

同窓生を中心に、学生、教職員そして理事会も含め、約2年にわたって進められてきた共同プロジェクト「ICUフィールド人工芝化」が4月に完成しました。ICUの全ての構成員がひとつの目標に向かい共に成し遂げた本プロジェクトは、今後の大学にとって大変意義深いものとなりました。今でもフィールドの横の小道を通り、鮮やかな緑を目にするたびに、皆様の熱意を思い起こしています。この場を借り、あらためましてご尽力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

さて、本学のキャンパスには築50年を 経過し、建て替えの時期を迎えた施設が多 くあります。特に、教育の中心である本館 や体育施設は、その建て替えが急務であり、 リベラルアーツ教育にふさわしい教育施設 はどうあるべきか検討を開始したところで す。今後、その他の施設なども含め、キャ ンパス全体の施設更新計画を策定し、皆様 にお知らせすることも予定しています。

アドヴァンスメントの推進 ~ホームカミングデイ

10月12日(土)、11月2日(土)には、現在のICUを皆様に感じていただく機会「ホームカミング」を設けています。10月の回は「リベラルアーツ21」と題し、皆様とともにリベラルアーツとは何かをあらためて考察いたします。当日は、アメリカのリベラルアーツ・カレッジの中でも、常に全米ランキング5位以内にランクされるMiddlebury Collegeや産業界から多数のゲストをお招きする予定です。11月の回では、文学・環境研究・歴史学の教授によるモデル授業を予定しています。献学以来続く対話型の授業に再度参加するとともに、同日に開催されているICU祭をお楽しみください。

入学者選抜制度改革の実施

現在、入学者選抜制度の改革を進めつつあります。2014年度4月入学者から、大学入試センター試験による募集を停止したほか、2015年度4月入学者以降の選抜方法を変更することを決定いたしました。この目的は、リベラルアーツ教育によって、これからの時代を切り開く可能性を持った学生を選抜することにあります。詳細については、様々な機会を通じて皆様にお知らせして参ります。

次の60年へ「理想を求めて成長し続ける大学」として

昨今、世界で活躍できる人材を求める声が高まり、リベラルアーツ教育の意義も見直される中、今ICUに必要なことは、大学の原点や献学の精神に立ち返り、さらなる教育の質向上や「世界共同体」の可能性を立証すべく、多様性に満ちたキャンパス環境を整え、神と人に奉仕する有為の人材を世界に送り出し続けていくことです。

オープンキャンパスなどで本学を訪れる 受験生や保護者の方は、在学生によるICU の説明や、その丁寧かつ適切な受け答えに 触れ、「ぜひ入学したいと」とおっしゃっ てくださいます。

同じように、卒業生のご活躍、そして皆様から語られるICUの姿は、本学の広報にとり大きな力になるものと考えております。次の60年へ「理想を求めて成長し続ける大学」として、リベラルアーツ教育の深化に向けて真摯に取り組んで参りますので、皆様からの変わらぬご支援を心からお願い申し上げます。

ICU's 60th Anniversary

This year ICU commemorates the 60th anniversary of its founding. ICU established a 5-year period for a "60th Anniversary Project" that started in April 2011 and is centered around the anniversary year of 2013. The project has been working to enrich liberal arts education with the overall theme of "dialogue" and three sub-themes of developing academic programs, improving facilities and the campus environment, and promoting advancement activities.

Development of Academic Programs

As part of this year's activities, ICU appointed two 60th Anniversary Professors who have been teaching classes since April: Professor Shigeru Miyagawa, from the linguistics department of MIT, and Professor M. William Steele, from ICU's history department.

In addition to his work in the field of linguistics, Professor Miyagawa has been integral to the development of OpenCourseWare (OCW), which provides official university courses and related information free online. He received the OpenCourseWare Consortium's "President' s Award for OpenCourseWare Excellence" for his achievements in promoting OCW at numerous universities around the world. In his classes, he exposed students to a new approach that uses visual media to explore the subject of history. He has also served as an advisor to ICU's OCW initiative, which has been making courses available online since April 2013, and has offered advice from various perspectives on the importance of OCW and how it will develop in the future.

Professor Steele, who joined ICU in 1976, studies modern Japanese society, thought, and political history, with a specialization in the way life outside the aristocracy was experienced in the periods before and after the Meiji Restoration. His work has involved lectures on ICU's founding philosophies

and their place in contemporary Japanese society as well as an inquiry into liberal arts education, its significance, its place at ICU, and its historical context, looking as far back as medieval Europe.

In June, ICU held a 60th Anniversary Service at the chapel and an event to commemorate the 50th anniversary of international educational exchange between ICU and the University of California.

ICU invited the chair of the United Board for Christian Higher Education in Asia, Dr. Michael Gilligan, to the anniversary service to speak on the subject of the deep relationship shared between UBCHEA and ICU.

The three-day ICU-UC anniversary event (June 24th to 26th) looked back at the schools' 50-year collaboration, discussed the possibilities of starting new internship and service learning programs in overseas study programs, and also involved a tree planting ceremony. When ICU was founded, 106 cherry trees were planted to line MacLean Avenue, but their age today has made them susceptible to damage in strong winds. The new cherry tree seedling given by UC commemorates the schools' fifty-year collaboration.

Improvements to Facilities and Campus Environment

The installation of artificial turf on ICU's athletic grounds was a two-year project that was completed in April. This primarily involved alumni, but it also included students, faculty, staff, and the Board of Trustees. The future of ICU is built by all members of its community, and this project brought these groups together to work toward a single goal. Furthermore, it was a project with resonance in terms of what universities of tomorrow will look like. You can see the marvelous effect of the new turf when you walk along the path behind the athletic grounds. ICU is extremely grateful to everyone who supported this project.

Since a great number of campus buildings



were built over 50 years ago, ICU is moving into a period when significant repair and rebuilding projects are necessary. The rebuilding of University Hall (a central part of educational activities) and the gym (essential for a liberal arts education) are especially pressing. ICU is currently investigating what kinds of facilities are most appropriate for a liberal arts education. It is preparing a plan for future building projects and will keep alumni informed of these matters. Please allow us to contact you to seek your support as these plans develop.

Reforms to ICU's Entrance Exam System

On the occasion of its 60th anniversary, ICU has implemented reforms to its entrance exam system. Starting with the incoming class of April 2014, ICU will no longer admits students through the "center exam." It has also decided on a set of changes to the selection process starting with students in the incoming class of April 2015. These reforms are made with the aim of securing a student body that possesses the character to flourish in a liberal arts education and the skills to carve out a new era in the future. ICU will make further announcements about these changes.

Heading into the Next 60 Years and "Becoming a University that Continues to Mature as it Pursues its Ideals"

ICU must establish a campus environment that meets diverse needs and cultivate promising graduates who will go out in the world in the service of God and humankind. This is to be achieved by returning to its founding principles, recognizing its obligations, confirming that further improvements to its education are being made, and realizing the possibility of making international cooperation a living part of ICU.

In addition to the passionate support we always receive from our alumni, we also ask that you tell others about the education and campus that you yourself have experienced first hand. After coming to Open Campus sessions and other events and speaking with our students, we are delighted to hear prospective students and their parents express an interest in attending ICU. In this way, alumni too are a tremendous resource for people to learn about the university. We hope you will continue to help us promote a greater understanding of liberal arts education as ICU heads into the next 60 years, "becoming a university that continues to mature as it pursues its ideals."

宮川繁教授、オープンコースウェアを語る

オープンコース・ウェアの提唱者であり、マルチメディア教育の第一人者である宮川教授が、 自身が顧問を務めるICUのオープンコース・ウェアの展望を語りました。

献学60周年記念教授の一人である宮川繁教授が、4月にICUのウェブサイトで公開されたICUのオープンコースウェア(OCW) に寄せて、日比谷潤子学長と対談を行いました。ここでは宮川教授の言葉から、ICUのOCWの将来を展望します。(詳細は、本学オフィシャルサイトからご覧いただけます。)

日比谷学長の「MITのOCWはどのような経緯で始まったのか」という問いに対し、宮川教授は「2000年に当時の学長がMITのこれからのe-learningに関する諮問委員会を設置し、そのメンバーの一員となった」のがきっかけと答え、「半年間くらいほぼ缶詰め状態でさまざま検討した」と語ります。

そして、「最終的にはMITの理念と合致するものとして、誰でも無料で利用することのできる教材の提供ということが提唱され、これがMITのOCWとなった」と経緯を明かしました

また宮川教授は「成功するかどうかは、ビジネスモデルとして秀逸かどうかということではなく、そのプロジェクトが大学の理念を表現するものかどうかによる」と明言します。

そして、「MITは『新しい知識を、つくる・共有する・保存する』ことを使命としており、その知識を広い世界の社会に当てはめてゆく活動をしている。それを従来は基礎研究において実践してきたが、OCWにより、それが教育の領域でも表現できるようになった」と、MITのOCWの成功の秘訣を語りました。

そして、ICUのOCWについては、「ICUには、OCWに合致したミッションがあると思う」とし、「ICUの学生は入学時に一人一人が『世界人権宣言』の原則に立って学生生活を送ることを誓約するが、世界人権宣言の第26条には『すべての人間は教育を受ける権利を有する』とある。これはOCWの理念そのものだ」と強調。そのうえで「だから、このミッションをうまく表現すれば、ICUのオープンコースウェアは必ず成功すると思う」と将来への指針を示します。

さらに宮川教授は、「ICUの特徴であるリベラルアーツの教育を是非OCWで表現してもらいたい。そうすれば、おそらく世界初の試みになるはずだ」と、ICUのOCW顧問としての目標と希望を語りました。

Shigeru Miyagawa Speaks About OpenCourseWare

President Junko Hibiya sat down to speak with Dr. Shigeru Miyagawa, a professor of linguistics at MIT and an ICU 60th Anniversary Visiting Professor, to talk about the OpenCourseWare program ICU started on its website in April

Professor Miyagawa received the OpenCourse
-Ware Consortium's "President's Award for
OpenCourseware Excellence" for his role as a
member of MIT's OCW Advisory Board and his
many achievements in promoting OCW at
numerous universities around the world.

Professor Miyagawa explained, "I was part of a committee the then-president of MIT established in 2000 to advise on the future of the university's e-learning program. We spent about six months considering the issue." However, Professor Miyagawa added, "in the end, we proposed the idea of offering teaching materials free of charge that anyone could access. That was more in line with MIT's philosophy and led to the develop-ment of OpenCourseWare."

Professor Miyagawa also stated, "the question of whether the program is a success or not does not depend on whether it excels as a business model, but rather whether it expresses the university's philosophies.



At ICU, I think there is a concrete mission for OCW." He then emphasized that, "all students sign the Student Pledge to spend their ICU days abiding by Universal Declaration of Human Rights when they enter ICU. That document states in article 26 that 'everyone has the right to education.' This is exactly what the philosophy of OCW is. Therefore, if this mission can be successfully expressed then ICU's OCW will surely succeed as well."

As an advisor to ICU's still nascent OCW program, Professor Miyagawa adds, "I really hope ICU will work to express its distinctive liberal arts education via OCW.

From The Alumni House

アラムナイハウスから

写真:青地あい

2期会報告

文責:松本吉見(2)



昨年10月16日(火) の昼に、定例の2期生会が新宿のレストランで開催されました。出席者は、同期の4分の1以上に当たる33名。米国から訪日された藤本篤子さんの音頭による乾杯でスタートし、全員から近況報告も含めた個性豊かなスピーチがなされ、大いに盛り上がりました。

次回は本年10月22日を予定し、再会を約して 名残りを惜しみつつ散会した次第です。

三期会報告

文責:山脇 恭(3)



昨年11月10日17時より新橋第一ホテル・アネックス3階ラウンジにてビュフェ。出席者は海外在住者4名、国内遠隔地在住者4名を含む計41名。2011年冬に他界された大方亨さんを偲ぶ黙祷に始まり、お酒やお料理片手に久闊を叙し昔に戻って大笑い。宴たけなわとなり遠来の友8名による含蓄あるスピーチを拝聴。41名、色々乗り越えてここ迄きて、勿論今も色々あるけれど、三期会に集えた幸せを感謝し大いに楽しんで、19時、来年の再会を約して散会しました。

リユニオン報告 ボストン支部会報告

文責:平井利長 (31 ID87)



2013年2月28日、昨年9月以来2回目、支部が正式 に設立されてからは初めてとなる支部会をケンブ リッジのレストランで開催しました。

日比谷潤子学長、日本国際基督教大学財団の大 和田康之理事長にもご参加を頂き、卒業生、交換 留学生、教員、及び配偶者を含め、総勢26人の 幅広い年齢層の賑やかなリユニオンになりました。

日比谷学長からICUの現状や課題等についてご 紹介があり、また大和田理事長からは財団の歴史 のお話やICUがグローバルな存在になることへの 期待が表明され、キャンパスでの想い出に花を咲かせ、将来のICUに思いを馳せ、大いに盛り上がりました。

シンガポール支部会報告

文責:碇 知子(29 ID85)



5月28日、同窓生、ID95の当麻彩さんのご帰国のため、送別会兼同窓会を開催しました。 ICU、ICUHS卒業生が13人集まりました。

デンマーク支部新年会報告

文責:ウィンザー庸子(42 ID98)



ICU同窓会デンマーク支部では、1月26日に美味 しい中華料理を囲みながら、和やかに新年会が催 されました。当地で長年活躍されている素敵な先 輩方とお会いでき、本当に楽しいひとときを過ご させていただきました。

ICU同窓会パリ支部 2013年春の懇親会報告

文責: 梨元 実 (17)



春の懇親会ですが日程がずれてしまい初夏の懇親 会になってしまいました。今回の反省点を今後の 活動に生かせるよう努力します。

6月16日(日) 久しぶりに快晴に恵まれました。 Cité des Sciences (科学都市) はパリの総合科 学博物館です。フランスは科学のいろんな分野で 世界先端技術を誇っています。平日は子供たちや 学生の見学で賑わいます。今年ここでルネッサン スの万能の天才といわれたレオナルド・ダ・ヴィ ンチ特別展が開かれています。モナリザを筆頭に イタリアルネッサンスを代表する絵画作品で有名 ですが、軍事・建築・土木や飛行機・パラシュー ト・戦車・永久機関など多くの技術でもアイデア いっぱいの天才です。その彼の科学・技術に的を 絞った展示会であり、彼が実際に作れなかった技 術作品を再現しています。思わず、うーんと唸ってしまう展示会でした。

なかなか訪れる機会のないこうした場所で、一日ゆっくり見学もしてもらおうということでここの地下二階、といっても段差があるため360度映画館Géodeのまん前にあり窓からは自然光が燦燦と降り注ぎ、たくさんの魚が遊々と泳ぐ大水槽を囲むようにテーブルが並ぶLe Hublotレストランにお昼に13名が集まり和気藹々と歓談しました。

ハワイ支部新年会報告

文責:ラブかずこ(16



去る2月2日、ICU同窓会ハワイ支部では、遅まきながら「新年会」を開き、今年初めての集まりとなりました。今回はいつものレギュラーメンバーの古参卒業生以外にも、初めて参加したMayumi Oiwa ('07) や、過去数年、冬の日本から暖かいハワイに渡ってこられるMatsue and Takeshi Suto('62) ご夫妻、また昨年他界された前ハワイ支部長のNaoki Murayama ('78) のお写真をご持参なさって出席くださったHisae Murayama、Yuko Otsuka ('91) の3歳になるお嬢さんHana ちゃんなど、17名がそろい、さまざまな顔ぶれとなりました。

香港支部会報告

文責:黒岩千賀 (30 ID86)



香港支部では、6月8日、総勢30名でCelebration Lunchを盛大に開催いたしました。

これは、もともとProf. AlbertChanのDAY受賞のお祝い企画だったのですが、先生に予定を伺ったところ、「今年の6月はICU献学60周年の記念の月ですから、ダブルのお祝いにしましょう」と逆提案いただき、それならばと、懸命に呼び込みをおこなった結果、ここ数年では最高の参加人数となりました。

60周年ということで、ICUのホームページにあった思い出の写真アルバムを全員でみながら、在学当時のことを話してもらいました。70年代の卒業生が参加していたので、ICU牧場の牛乳の話を2000年代の卒業生が驚きながら聞くと言う世代を超えた交流もあり、なかなか興味深い集まりとなりました。

最後は、同窓会の事務局から送っていただいた「ICU Song」をパワーポイントの歌詞の助けを多いに受けながらも、全員で歌うという画期的な企画もあり、賑やかに散会となりました。

香港支部は、かつて香港からの奨学生だった人、 OYRだった人、今駐在員として香港にいる/香港になんだか長期滞在している日本人とバラエティ豊かな会です。まだ、ご参加されてない方は、 ぜひ、ご連絡ください。次回は冬の頃を予定しています。

上海支部「第1回ICU ゴルフコンペ」開催報告

文責:河渕千紗(50 ID06)、岸原豊明(29 ID85)



6月30日(日)、上海太陽島国際ゴルフクラブにて、 上海支部のメンバーで懇親ゴルフ会「第1回ICUゴ ルフコンペ」を開催しました。

上海支部は、今年5-6月に「ミッション系大学ゴルフ対抗戦」及び「上海大学対抗ゴルフ大会」に参加し、一気に盛り上がりを見せていますが、大会参加だけではチームメンバー同士で一緒にラウンドする機会がなかったことから、今般懇親ゴルフコンペ開催の運びとなりました。

他校に負けじと作成した「ICUチームポロ」は、胸に「ICU」、袖に「Shanghai」、そして背中に「ICU献学60周年記念ロゴマーク」をあしらった可愛いデザインで、写真の通りICUのスクールカラー「ミッションブルー」の近似色をベースに濃淡3色のバリエーションもあり、とても素敵な仕上がりとなっています。

2組7名の小規模なコンペでしたが、できたてのチームポロを皆で身に付けた一体感(しかもお洒落に色違い!)と、「チーム力向上のためには個のレベルアップが必要」という厳しい相互プレッシャー(まるでサッカー日本代表!)を楽しみつつ、夏空の下で和気藹々と盛り上がりました。次回は秋に開催予定で、引き続きゴルフをきっかけとした同窓会活動を楽しんで行きたいと思います。

P.S. なお「ICUチームポロ」については、袖の「Shanghai」部分を変更or削除すれば、各地の支部会バージョンにも対応可能だと思いますので、もしご興味あれば下記までご連絡下さい。

shanghai-chapter@icualumni.com



台湾支部同窓会報告

文: Michael Guo (G1989)



2013年度の台湾支部同窓会は3月30日(土)11:30-13:30に台湾中部の台中市で開催されました。 2010年12月に初めての台中開催以来、今回は2回 目でした。

台中在住の盧 千恵さん(4期)ご夫婦、孫 景富さん(4期)と高 振華さん(院68)ご夫婦が全員参加。今回も遠い南の台南在住の黄 英甫さん(院73)ご夫婦と北の台北在住の林 欣蓓(36期)・欣穎(38期)ご姉妹がわざわざ台中に集まって頂き、卒業生と家族を合わせて、合計10名の出席でした。

まず、台中在住の部員と家族が参加者から、同窓会開催三日前、台中付近に起きたマグニチュード5の大地震のお見舞いを受けました。怖い思い以外、幸い全員が無事でした。

会場は台中市内の有名な日本料理店で、極自然な場所と思われましたが、実は、2005年同窓会台湾支部が発足以降、日本料理店で同窓会を行ったのが今回初めてです。職人が手掛ける美味しい和食を堪能しながら、一年ぶりの会話と交流を2時間ほど交わしました。会食の終わりに、盧 千恵さんがご署名入りの新作と林 欣蓓・欣穎ご姉妹が遠い台北から運んできた自社商品のマグをプレゼントとして出席者に一人づつ配りました。この部員からの意外な熱意が同窓会の最後の盛上りをもたらしました。

情熱に溢れた場面を最後の記念写真に残した 後、お互いが来年は台北でも、台中でもまたお会 いできるように約束しながらお別れを告げました。

東海支部の懇親会が開催されました!

文責:森本 (内山) 智映子 (41 ID97)



2012年8月30日午後7時より、名古屋駅近くのレストラン「エピグラン」にて、日比谷潤子学長に御参加いただいての東海支部懇親会を開催いたしました。今回のテーマは「LOVE ICU」。その名のとおり、ICU LOVERS達が集合し、東海支部の同窓生だけで49名、東京本部から御参加いただけた方を含めるとなんと54名という大規模な懇親会となりました。

ほとんどの同窓生は、日比谷学長に初めてお目 にかかるという状態でしたが、日比谷学長のお話 が始まると、その軽妙なお話ぶりにみな瞬時に引き込まれてしまいました。日比谷学長という新しいキャプテンを得て、ICUという母校が今後どのように進化していくのか、東海支部の同窓生も期待・応援しております!

その後は、廣瀬正宜OB撮影の現在のICUキャンパスの写真をみながらの歓談を行いましたが、皆キャンパスの変貌ぶりに大騒ぎ。新D館や新図書館、そして新しい寮などの映像にどよめく反面、やっぱりかわらないバカ山や泰山荘、構内の木々の様子に思い出話が止まりませんでした。

しかし圧巻は、なんといっても50名弱の東海 支部同窓生の自己紹介です。学部卒業したばかり のOGや既にリタイアも経験しながらまだまだエ ネルギッシュに活動されている先輩、そして夢の 実現に向けて驀進中の同窓生まで、多種多様な、 そして楽しい自己紹介が続きました。平素は、東 海に居るとあまり目立たないICU同窓生ですが、 このときばかりは「ああ、これこそICU。」と実感 させられる時間でした。

そしてICU SONGの合唱。これで皆、気分だけはICU生時代に戻り、「ひげ」というわけにはいきませんでしたが、二次会へと流れ、夜更けまで楽しい時間を過ごしました。

今回、日比谷学長だけでなく、同窓会本部から 齋藤顕一同窓会理事をはじめ3名の理事にも御参 加いただき懇親会を盛り上げていただきました。 ありがとうございました。

東海地方においてICU同窓生は数も限られており、残念ながらICUの空気を感じることは多くありませんが、今回、皆さんと時間を共有でき、それぞれの中のICU spiritsを感じることができました。皆さん、本当にLOVE ICU! でした!ありがとうございました!

さて、東海支部では上記のような公式な行事の他にもMLを通して突発的にも小さな集まりを開催しています。東海は転勤での出入りも多い土地ですが、こちらに来られた時は短期間でも大歓迎ですので、是非ご参加ください。

寄付者御芳名

トラベル ICU

貴重な御寄付を賜り、誠にありがとうございました。

MISSING たずね人

深見 淳 (43 ID99)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

訃報 Obituary

 中内
 恒夫名誉教授
 中村
 昭博(2)
 梅田
 晃

 (2)
 奥田
 暁子(4)
 中井
 保智(8)
 黒沢
 公

 雄(10)
 武田
 脩(10)
 登
 勝昭(11)
 高橋
 和

 敏(12)
 伊藤
 雄三(15)
 力丸
 京子(27 ID83)

 堀
 雄士(36 ID92)

心よりお悔やみ申し上げます。同窓会 WEB にも 計報ページを新設いたしました。詳細は事務局ま でお問い合わせください。

ICU 祭実行委員会から

今年度のICU祭は、11月2日(土) ~3日 (日) にかけて行われます!

毎年1万人以上がご来場くださるICU祭は、ICUの内部と外部が交流する一大イベントとなっています。催しも多種多様で、サークル・セクション・有志団体に加えてアラムナイ・アドミッションズセンターなど、100を超える団体が出す模擬店・ステージパフォーマンス・展示発表などで賑わいます。

加えて、ICU祭実行委員会は今年も「本部企画」として開祭式・閉祭式・グランプリ企画・アカデミック企画・子ども企画・ARTist企画・キャンパスツアー企画の7つの企画を行います。今年新たに加わったキャンパスツアー企画は、普段ICUになかなか足を踏み入れることがない方々にもICU祭を堪能していただける内容です。

また、今年度のICU祭のテーマは、2013年にICUが献学60周年を迎えることを受けて、「還~次の60年に向けて~」となりました。 還暦にあたる60周年を記念し、また新たな60年に繋げていけるようなICU祭を実施します。皆様も是非ご来場ください!

ICU Festival 2013

- 開催日:2013年11月2日(土)~3日(日)
- お問い合わせ:ICU祭実行委員会

TEL: 0422-33-3315

ICU'83 卒業30周年 リユニオンのご案内

83卒業30周年リユニオンを以下のとおり開催いたします。本年はICU献学60周年でもありますので、ICUの現在と未来について北城理事長ならびに日比谷学長をお迎えしてお話いただきます。

是非お誘いあわせのうえ、多数の皆様のご参加 をお待ちしています。

ID'83、83年卒業の方、研究生等、関係の深い方、 又前後IDの方歓迎です。5年ぶりに会いましょう!

■ 出欠その他連絡はこちらのURL

http://bit.ly/1aj4rNS のフォームにてお返事ください。(欠席の場合でもご連絡お待ちしてます)

■ 開催日時: 2013年11月9日(土)

12:45 - 15:00 (開場12:15)

■ 開催場所:ICUキャンパス 新大学食堂

(場所は昔の学食と同じ)

■ 会費:5,000円を予定

*2次会 15:00よりアラムナイハウス2階ラウンジ にて予定。2次会費は別途徴収予定ですが、1次 会費からも多少補充する予定です

*本会の幹事のヘルプも募集中!!

*リユニオンについては多くの方の目に止まるよう、メールや郵便など、複数の手段でご案内していきますが、出欠のご連絡は一度いただけば大丈

■ 代表幹事:佐柳智広・新村敏雄

お問い合わせは ICU-ID83@yahoo.co.jpまでメールでお願いします。

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサイズ6万円・ハーフサイズ3万円で承っております。ご興味のある方は、詳細を 事務局までお問合せください

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオン等の案内・報告をお寄せください。本誌およびホームページに 掲載いたします。

★ICU 同窓会とは関係のない名簿業者 にご注意ください!

「人事新報社」という業者から名簿の申込みの往復はがきが郵送されているようですが、この業者は ICU とも ICU 同窓会とも一切関係がございません。個人情報の流出にはくれぐれもご注意ください。

★ 同窓会名簿について

同窓会名簿は 2006 年に発行されたものが最後となります。まだ在庫がございますので、購入をご希望の方は事務局までお問合せください。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際は下記同窓会ホームページの住所変更のページからお手続き下さい。http://www.icualumni.com/register/index.html 携帯の方はこちらからどうぞ:



地方・海外にご転勤の際には同窓会ホームページ下記支部一覧のページから支部 アドレスにコンタクトできます。http:// www.icualumni.com/about/shibu. html#tab

★ ご協力をお願いします。

大学の宣伝=大学への支援という考え方から、同窓生の著作、雑誌インタビューなどには、略歴欄に「国際基督教大学卒業」とお入れいただけますよう、お願い申し上げます。

★ 四季が綺麗な ICU キャンパス。足を 運ばれた際にはアラムナイハウスへお気 軽にお立ち寄りください。

100 円にてコーヒー・紅茶をお出しして おります。なおラウンジ使用中にはご要 望に沿えない場合がございます。

■大学・同窓会に関する情報が満載です。ぜひ一 度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

大学ホームページ http://www.icu.ac.jp/ JICUF ホームページ http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320

Email: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com

7 ASTROLOGY

星から届くメッセージ 鏡リュウジの占星術 2013-2014

☆今年も後半になりました。みなさん、い かがお過ごしですか。めまぐるしく世相も 変わっていますが、ICUマインドを大事に、 これからも過ごしていければいいなあ、と 思います。そして、ぼくも一応、「占星 術」を看板にしていますから、今年の後半 から2014年にかけての星からのメッセ - ジをお伝えしようと思います。「当たる

も当たらぬも というのはもちろんですが、 この星からのシンボルをいったん自分で受 け止めてもらって、そこからみなさんのイ メージを広げていただければ幸いです。あ れこれ、自分なりの連想を広げてもらえれ ば、今の自分に対して、「ああ、こんな見 方もあるのかも」と思っていただけるかも。 どうか、気軽に楽しんでください!

鏡リュウジ (34 ID90)

かがみ・りゅうじ●京都生まれ。心 理占星術研究家・翻訳家。高校時代 より占い雑誌へ投稿をはじめる。欧 州発祥の心理学的アプローチを交え た占星術を日本に広く紹介。翻訳家 として占星術史の学術的研究も積極 的に行っている。



牡羊座

ARIES



3月21日~4月19日生まれ

幸せへの道はすぐそばに

これからの1年のテーマは「基盤」です。日 ごろはとてもアクテイブに外に向かって動い ている牡羊座ですが、今は自分自身の足元、 自分が本当に安心できる場を探し求めること が大切。空間的にも感情的にも自分の「基 盤」さえしっかりできれば、2014年に大き く飛躍することができるはず。ぜひ、自分を 取り巻くすべてのことについて、「今のまま でいいのだろうか?」と問いかけてみて。そ うすると、きっと何か見落としていたものを 見つけることができるはず。幸福の青い鳥は、 実は外ではなく、自分のすぐそばにいるとい うことがわかるはずです。また、ホームパー テイなどにも幸運の種子が眠っていますよ。

牡牛座

TAURUS



積極的な挑戦が吉

これからの1年のテーマは「知識」です。 ICU卒のあなたなら、きっと日ごろから新 しいことを学び続けているはずですが(!) これからの1年は、ますますその傾向が強く なっていきそう。どちらかといえば慎重派で、 新しいことに対して用心深くなりがちな牡牛 座ですが、この時期はぜひ、刺激に対して柔 軟に対応していってください。日ごろはどち らかというと慎重なあなたですが、これから は「あれかこれか」ではなく、「あれもこれ も」と欲張ってどんどん新しいことに挑戦し ていってください。また、自分よりも年下の 世代からも学ぶことが多いはず。いったん、 フラットな目線を持って接して。

双子座

GEMINI



5月21日~6月21日牛まれ

幸運の答えはもう手のなかに

今から1年の間のテーマは「所有」です。 2013年前半まで、幸運の星・木星があなた のもとへあらゆるチャンスを運んできていま した。実はこれまでの1年間、いろんなこと が動いて忙しかったのではないでしょうか。 楽しい時期ではあったものの、息つく暇もな かったのかもしれません。そのなかには幸運 の種子がいくつも隠されています。これから はその「幸運が何か」をじっくりと味わえる 時期。何か不満があって状況を変えたいと思 うときこそ「すでに持っているもの」に目を 向けてみて。きっと答えは、もう手のなかに あるはずです。また、この時期には長く使え る何かの「モノ」を手に入れるチャンスです。

蟹座

CANCER



6月22日~7月22日生まれ

勇気あるチャレンジを

これから1年のあなたのテーマは「飛翔」で す。というのも、幸運の星である木星が、 12年ぶりにあなた自身の星座に戻ってきて 輝きを増しているからです。最近、何かの挑 戦をしていますか?学生時代のような怖いも のなしのチャレンジをしたのは、最近いつで したか。慎重な蟹座さんですが、実は今こそ、 もう一度そんなチャレンジをすべきときです。 もちろん、挑戦の先には、あなたが越えるべ き壁があります。そして、その壁を越えたあ とに見える景色は、今まで見たこともないよ うな、素晴らしい世界。せっかくの幸運をつ かむのはあなた自身。今何もしないのはもっ たいないです。

獅子座



7月23日~8月22日生まれ

心の内を覗いてみて

これからの1年のテーマは「内省」です。こ れからの1年、人とのつながりが濃く、深く なるのと同時に、あなた自身の「内面への 旅」も増えていきます。ふだん、獅子座は明 るくて自分自身を表に打ち出していく人。多 少のことがあっても、暗い顔は見せません。 でも、今は自分自身のなかのちょっとした 「影」の部分を見つめ直すのもいいときでは ないでしょうか。珍しく感傷的になっている 今、自分自身を見つめてもいいかも。ただ、 2014年以降に、大きな飛躍の時期がやって きます。そのとき最高の飛躍をするためにも、 過去を振り返りながら、清算すべきことは清 算することが大事です。

乙女座

VIRGO



8月23日~9月22日生まれ

ユニークさで勝負

これからの1年のテーマは「友人」です。日 ごろから人々をサポートすることに喜びを感 じているあなたですが、この時期には「お互 い様」といえるような、ウイン、ウインの関 係がつくれそう。しかもこの集まる仲間は、 どちらかといえば非常識で型にはまらないタ イプ。ICU 卒のあなたなら、そうした人の ポテンシャルをいかんなく活かすことができ るのではないでしょうか。最初は、その型破 りな考え方が周囲を驚かすことが多そうです が、あなたのサポートと外交能力で次第にそ れが社会のなかで活かされていくはずです。 ユニークさこそが何よりの財産に。当たり前 からの脱却を。

天秤座





9月23日~10月23日生まれ

野心を持ってGO!

これからの1年のあなたのテーマは「目標| です。幸運の星が社会的な立場を象徴する位 置に戻ってきたこの時期には、あなたには大 きな期待と、それを超えるようなあなた自身 の高いモチベーションが与えられます。大き なプレッシャーを感じるとともに、強い手ご たえを感じられるでしょう。目の前に何がや ってきても、逃げず、りりしく立ち向かって。 あなたはきっと、期待以上のことをやり遂げ られます。そして、自分でも予想もしなかっ たほどの高い評価を得て、大きくステップア ップできるでしょう。いまのステージで満足 しない、という野心がいまこそ必要なとき。

蠍座

SCORPIO



10月24日~11月22日生まれ

未知の世界へ

これからの1年のテーマは「開拓」です。あ なたの世界が大きく広がる暗示があります。 あなたはちょうど今、一つのステージを昇り きったところ。その立場からでないと見えて こないものがあるはず。未来への新しい夢も 出てくるでしょうし、ICU的な、国際的な ヴィジョンがより冴えてくるという暗示もあ ります。物事を深く掘り下げることを得意と する蠍座ですが、今はより遠くへ目を向ける ことに集中して。そこに、足元を見ていただ けでは決して得られない、刺激的な世界が待 っています。未知の世界へ足を踏み出すこと を恐れないようにしてください。新しい語学 やスキルを身につけるのもいいとき。

射手座

SAGITTARIUS



11月23日~12月21日生まれ

わかち合う喜びを

これからの1年、あなたヘ与えられるテーマ は「共有」です。これまであなたがやってき たことを誰かとわかち合うべきときがきてい ます。喜びは誰かとわかち合えば倍に、悲し みは半分になるのが世の理。それを実感する ときになるでしょう。同じものをただわかち 合う、というだけでなく、この時期のあなた に「これを受けとって欲しい」と何かを差し 出す人も出てきそうです。それは、長年培わ れた技術の継承であったり、遺産相続であっ たり、強い想いであったりします。いずれに しても受け取るべき、また渡すべきバトンを あなたは今、握っています。

山羊座





新しい自分が待っている

これからのあなたの1年間のテーマは「協 同しです。この時期、あなたのもとにやって くる出会いを大切にしてください。どんな一 瞬のめぐり合わせであっても、人と会うチャ ンスは決して逃さないようにしましょう。食 事などに誘われたときは社交辞令で終わらせ ず、ちゃんと予定を出し合って約束するよう にしてください。また、このときには今まで やったことがない未知のものとの出会いも暗 示されています。大人になると、全く新しい ことには手を出さなくなるものですが、それ だけではもったいない。この1年は、自分自 身を奮い立たせて新しい舞台に立つようにし て。新しいあなた自身にきっと出会えます。

水瓶座





生活サイクルをチェンジ!

これからの1年間でのあなたに与えられたテ ーマは「役割」です。あなたには、与えられ た役割や使命があるのだと強く意識するよう な出来事がありそうです。まずは今、自分が 任されている役目をしっかりと果たし、その 上で「これが本当の役割なのか?」と自問自 答をしてみてください。また、あなた自身の 生活のサイクルを見直す良いタイミングです。 一度狂い始めたサイクルは思い切ってどこか で調整しないともとには戻りません。このあ たりで何かをばっさりと整理してみることが 必要なのかもしれません。また、エステ、マ ッサージなど含めて自分自身のメンテナンス を考えることもツキを招くという暗示が。

魚座





2月19日~3月20日生まれ

幸運の波にダイブ

これからの1年にあなたに与えられたテーマ は「表現」です。自然体で過ごしているだけ で周囲の注目を集める星回りですから、あな たの近くにはいつも、大勢の人が集まってく るでしょう。「こんなに急に」と戸惑うかも しれませんが、幸運の波に乗るチャンスは一 瞬。そのチャンスには迷うことなく乗ってみ るようにしましょう。また、あなた自身が何 かをクリエイトすることができるという暗示 も出ています。きっとあなたにしかできない、 作れない何かがあるはず。そのことを忘れな いようにして。子供のような遊び心を持ち続 けることが鍵になるはず。無邪気な心をもう 一度取り戻すようにして。

STAFF

EDITOR IN CHIEF

樺島榮一郎 Kabashima, Eiichiro(37 ID93 G1997)

EDITORS

野仲裕子 Nonaka, Yuko(48 ID04) 栗山のぞみ Kuriyama, Nozomi(34 ID90) 赤松弥生 Akamatsu, Yayoi(39 ID95) 佐々木淳子 Sasaki, Junko(44 ID00) 森川幹人 Morikawa, Mikito(47 ID03) 清水 裕 Shimizu, Yu(50 ID06) 小林智世 Kobayashi, Tomoyo(52 ID08) 日下部洋亮 Kusakabe, Yosuke(60 ID16)

PHOTOGRAPHERS

青地あい Aochi, Ai(42 ID98) 一之瀬ちひろ Ichinose, Chihiro(42 ID98)

ART DIRECTOR

佐野久美子 Sano, Kumiko (40 ID00)

PRINTING DIRECTOR

杉浦健一 Sugiura, Kenichi (小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR 谷摂子 Tani, Setsuko (33 ID89)

PUBLISHER

永渕光恵 Nagafuchi, Mitsue (21 ID77= 海老原)

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験を AN に生かしてみませんか? 企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒に担っていただける方を募集しています。もちろん未経験でも上記にご興味のある方、また現役の学生さんは、各界で活躍する先輩と一緒に活動できるチャンスです。同窓会事務局へメールでご連絡下さい。

メールアドレス:aaoffice@icualumni.com

